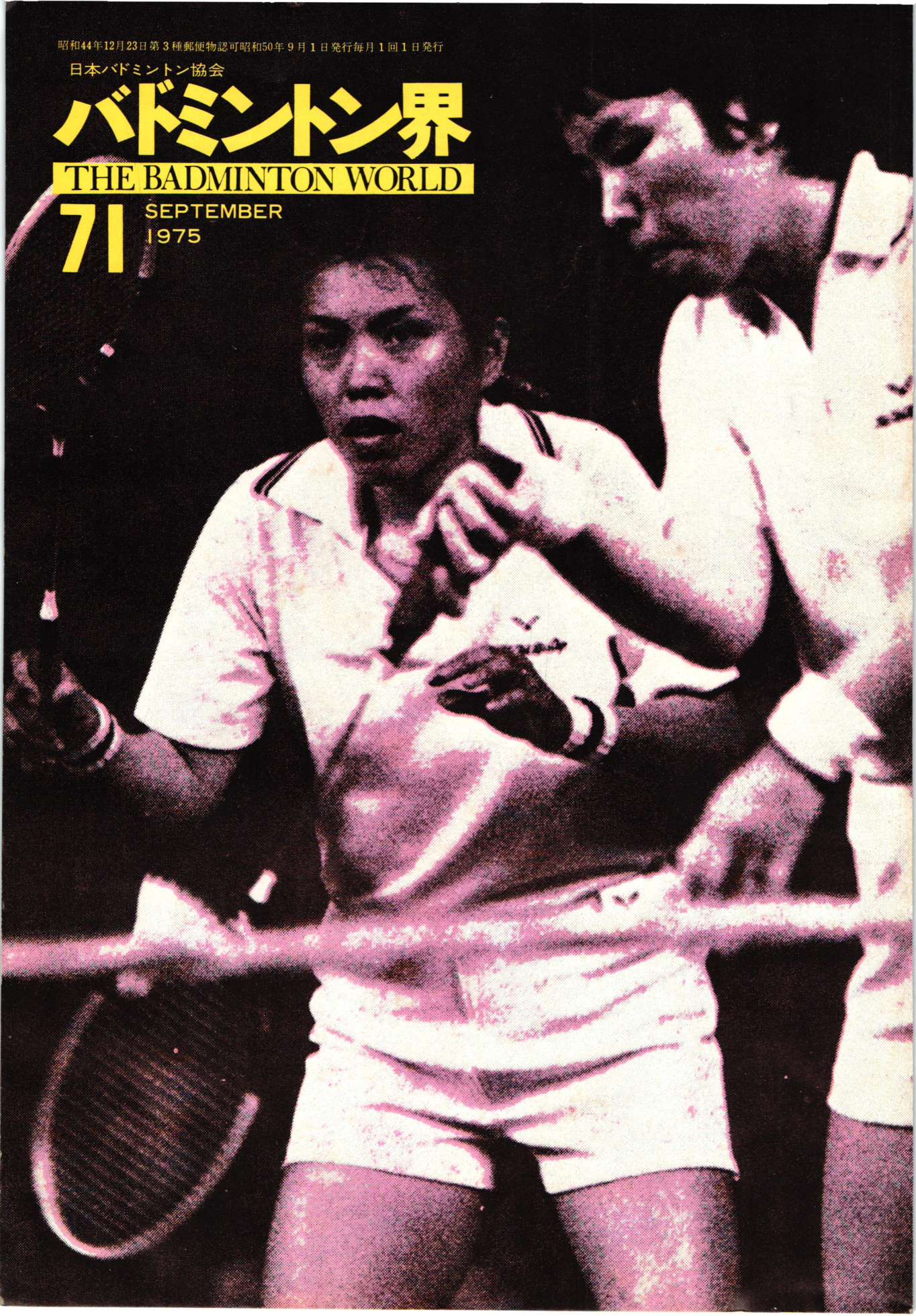
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和50年9月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

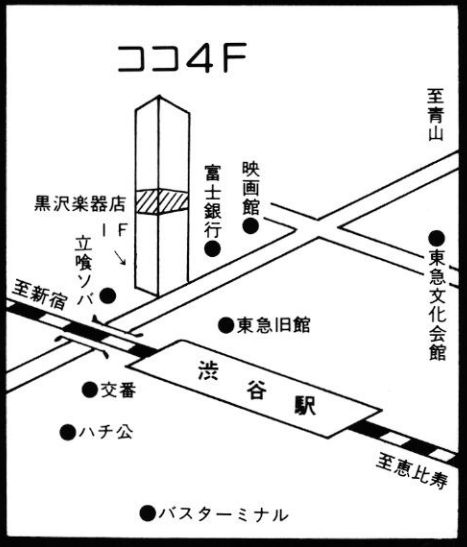
71 SEPTEMBER 1975



世界で初めて
BADMINTONだけの

ラケットショップ元町 ・渋谷店

☎03−400−7390



バドミントン界
THE BADMINTON WORLD
NO. 71
1975年9月号

目次

表紙撮影・山田真市，同制作・小浜正道，本文中写真・山田真市

第10回トマス杯大会アジア東地区予選
日本一試合も落とさず香港に完勝……2
スピード・スタミナ・テクニックで圧倒
●戦評・後藤忠弘……3
“精神的”スタミナに欠けた香港
得点経過……4
●観戦記・秋山真男……6
力強い日本選手の活躍
ヘアピン……8
第10回トマス杯大会組合せ・栄光のあと……9

〈グラビア写真集〉……11
小島一平のヒョウのように鋭いラッシング……12
楊美良　けんめいの返球……13
中国選手を思わせる楊のジャンプスマッシュ……14
小島の強烈なアタック……15
若獅子　銭谷欽治……17
池田・棚野尾組　日本一の実力みせる……21
土田証雄　初出場で重責を立派に果たす……26

第３回世界招待バドミントン競技会
湯木　シングルスで見事優勝……28

第２回愛知県家庭婦人バドミントン大会
●伊藤鉱一……30
お母さん！がんばれ

昭和50年度東日本学生バドミントン選手権大会決勝種目戦評……32

●公告＝日本バドミントン協会用具委員会……34
バックナンバー頒布について……36

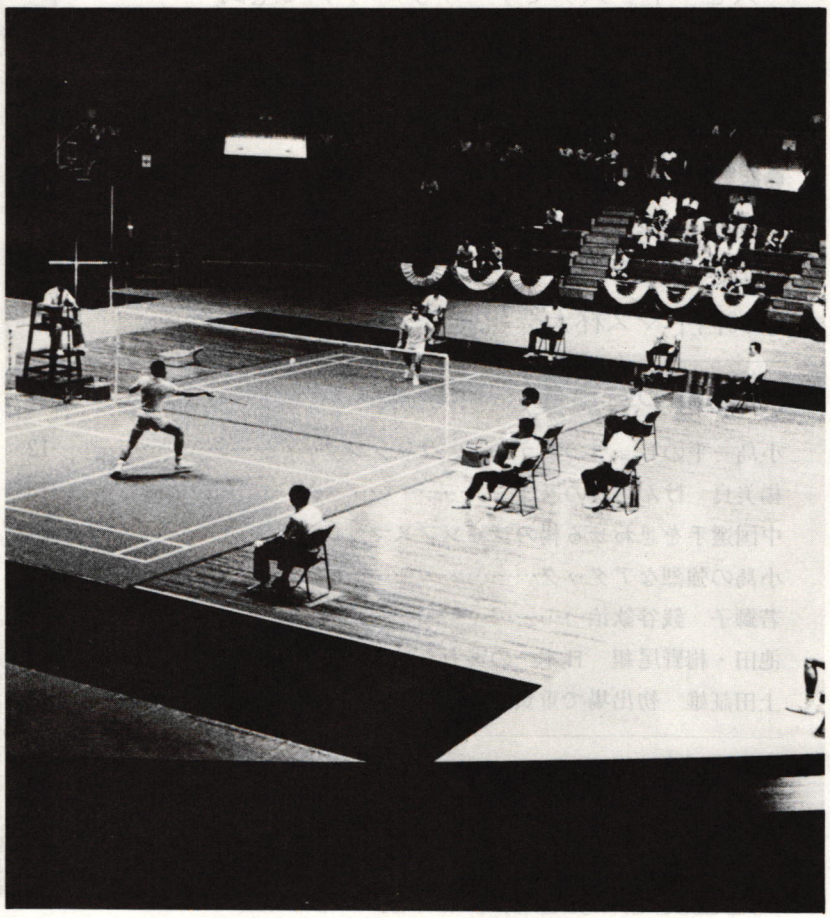
ず香港に完勝

――トマス杯アジア東地区予選――

9・20～21・東京代々木・国立競技場第二体育館

スピード・スタミナ・テクニックで圧倒

第10回トマス杯争奪男子世界選手権大会のアジア・ゾーン東地区1回戦、日本×香港は九月二十日、二十一日の両日、東京の代々木第二体育館で行われ、日本が9―0で完勝した。東地区の参加は三ヵ国だけであり、日本はこのあと韓国と対戦（来年一月上旬、東京の予定）するが、これに勝てば東地区代表となり、西地区代表とアジア・ゾーンの優勝を争う。



小島(右)対楊のシングルスで幕をあけた

◇アジア・ゾーン東地区1回戦

日本 9（単5―0 複4―0） 0 香港

▽……第1日……△

〔シングルス〕

小島一平 2 15―6 15―5 0 楊 美良

銭谷欽治 2 15―6 15―3 0 黄 文興

〔ダブルス〕

池田信孝 梅野尾昌一 2 15―11 15―8 0 侯 宏昌 黄 鴻平

飯野佳孝 土田証雄 2 15―6 10―15 15―6 1 陳 国明 黄 文興

▽……第2日……△

〔シングルス〕

土田証雄 2 15―6 15―8 0 侯 宏昌

小島一平 2 15―0 15―7 0 黄 文興

銭谷欽治 2 18―16 15―4 0 楊 美良

〔ダブルス〕

飯野佳孝 土田証雄 2 15―6 15―5 0 侯 宏昌 黄 鴻平

池田信孝 梅野尾昌一 2 15―10 15―6 0 陳 国明 黄 文興

日本 一試合も落とさ

"精神的"スタミナに欠けた香港

評＝東京新聞 後藤忠弘

「いや、ちょっとね、固くなったですよ」シャワーを浴びても、まだ吹き出る汗をぬぐいながら、小島選手はテレたように笑った「卜杯でトップバッターは初めてだし、遠井さん(監督)が何が何でも勝ってもらわなきゃ困る、なんておどかすものだから…」

第1シングルス小島×楊。試合後、話を聞いて、なるほど、とがてんがいった。小島が3点をとるまで、どんなに手数がかかったか、得点経過を見ていただきたい。初手から積極的攻勢に出ながら、エースがとれず、点につながらない。もはや、得意のジャンプ・スマッシュもパワーの衰えで、相手に通じなくなったのか、と錯覚させられたほどだった。

しかし、さすがはベテラン小島だ。一筋縄では相手が簡単には降参しないと見て、四隅を突いてゆさぶりながら、チャンスをつくる策に切り替えた。楊は日本勢を上回るほどのスピードを持っているが、これといったウィニング・ショットがない。小島のゆさぶりに、ホームポジションを追い出されると、大きいリーチだけでは、それをカバーし切れなくなり、主導権を手放してしまった。

バドミントンの勝負はテニスに似て、エラーの多少が明暗を分ける最大要因、というのが普通だが、この試合の第1ゲーム小島がペースを握ってからは、それが当てはまらなかった。具体的にいうと、4点目からゲームに至る12得点のうち、楊の失点であげたものは4点だけ。残る8点は小島の攻撃点であり、内訳はスマッシュ3、フォアのプレースメント1、ドライブ1、クロスコートのカウンター1、前陣でのプッシュ1、ショート・サービスのエース1、であった。小島がいかにがっちりとペースを握っていたか、攻撃のバラエティとともに、理解されるのだ。

小島の話に紙数をとりすぎたようだが、以後、香港選手に共通していた点は、序盤はせり合って威力を発揮するのに、中盤以降はさっぱり、ということだった。これは肉体のスタミナばかりでなく、精神のスタミナも早く切れてしまうせいだ、と思われる。日本選手の心身のスタミナも、西欧、東南アジア各国選手に比べると、決してほめられないが、香港戦に関する限りは、明らかに日本が上だった。

銭谷は幾度かの国際試合を経験して、少しずつ試合の流れをつかむカンどころをわかってきたようだ。カサにかかって攻めつけたり、変化球で相手をまどわせたり、けっこう、いろんなことをやる。その中の一つ、最も成功した変わり身が、第二ゲーム6―3からのショート・サービスだった。

シングルスでのショート・サービスは、ヘタすると、単に目先きを変えた以上の意味がないばかりか、相手のカウンター・パンチを許して逆効果という危険性さえある場合が多いから、乱用はすべきでないが、このゲームに関する限り、その効果は絶大だった。7点目から13点目までの7点のうち、5点までがショート・サービスのレシーブミス。1点がサービス・エース残る1点はスマッシュ。つまりこの間、3本以上ラリーの続いたイニングは、スマッシュが決まった一度しかなかったことになる。

続く二つのダブルスは、いささか苦戦であった。一般にクラブ育ちの外人は、ダブルスがうまい。だから、シングルスでは弱い選手でも、ダブルスを組むと、面目を一新することが多いので油断できない。香港のダブルスにも、そのようなことがいえる。

第1ダブルスの池田・栂野尾組×侯・黄組。香港組はしきりに池田をねらった。池田は背が低いハンディを持っており、しかも、前陣プレーヤーだから、どうしても集中攻撃の目標になりやすい。このため、日本は追われた池田が逆に後衛に回るシーンもしばしば。しかも、香港組は陣型を並列に開いたとき、ベースを中後陣にやや深くとるので、意外に守りに強かった。第一ゲームが均衡したのは、そのためである。

しかし、このバランスは終盤相手の攻撃ミスが多くなると日本に傾き、第二ゲームまで続いた。その原因の一つは、サービスで日本が相手をしのいだことだ。全英ベスト4の実績を持つだけに、池・栂組もペースを握れば強い。第二ゲームでは、栂

野尾の角度のある強打がよく決まり、一方、香港組は、侯が功を焦って攻撃ミスを多発、明暗をくっきりえがき出した。

飯野・土田組は、第二ゲームで弱点を暴露した。このペアは早いタッチ、早い展開のテンポが身上であり、それだけに攻撃ペースでは絶対だが、いったん受けに回ったときは、全く平凡なペアに化けてしまう。第二ゲーム一気に6—0とリードしながら、土田のスマッシュ・ミスがきっかけで逆に6—14とされてしまった。

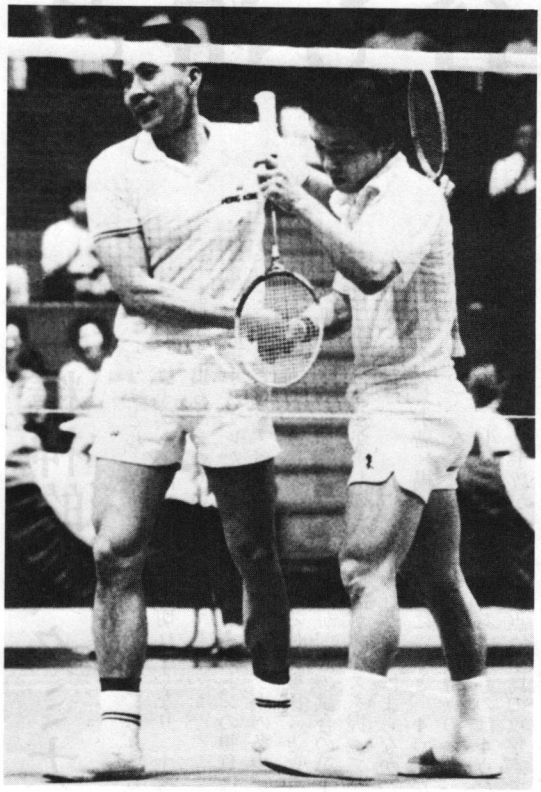
逆転されたこと自体も問題だが、それも14点続けて献上するとはなにごとか。この間、わずかに4度、サーブ権を奪い返したにすぎない。1イニング2本のサービス機会を、全くモノにできなかったとは情けない。このペアのサービス力は決して低くない。ファイナルでも4点をサービスで稼いでいる。第二ゲームでの無抵抗ぶりは、ペースを奪われて、われを失ったためと見受けた。

明けて第二日。第3シングルスとして土田が登場した。前日のダブルスで、エラティックだったので、若干、心配したが、土田はシングルス選手として国際試合初舞台にもかかわらず、よくがんばった。

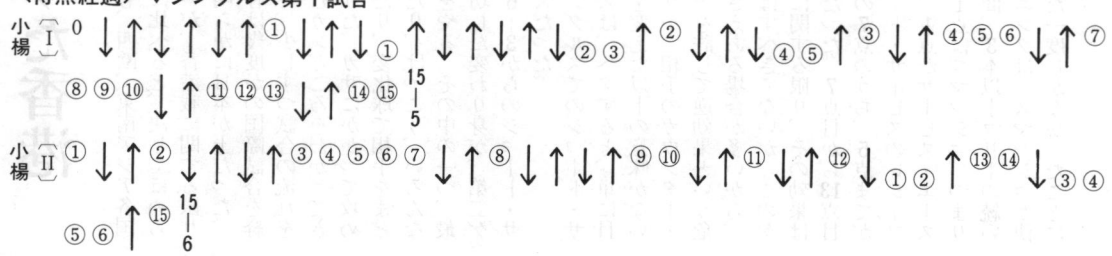
侯は、中国のNO・1侯加昌の弟だという。前陣プレーは反応が実にすばやく、うまい。主武器は両サイドラインをねらうストレート、両翼前陣からのカットだが、やや粗雑で、しかもパターンに変化が少いから、相手に覚えられやすい。

第一ゲーム、8—3とリードされた土田も、勝手がわかってくるとたちまち体勢を整え、手首のよくきいた、鋭い変化球と強打で挽回した。侯はしだいに集中力をなくしたようで、8—13から、終末の2本、土田のサービスを見送り（アウトすると感ちがいした）ゲームを献上した。

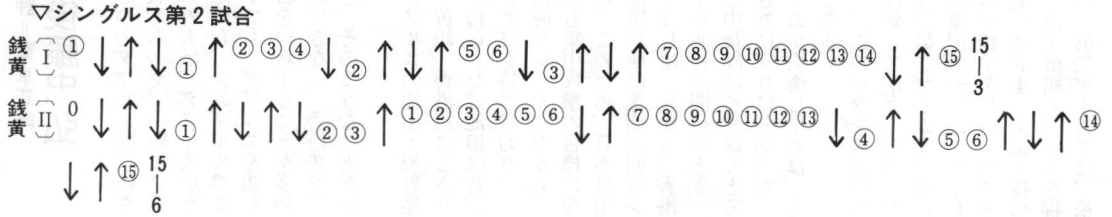
お互いに健闘を讃えあう小島と楊



〈得点経過〉 ▽シングルス第1試合



▽シングルス第2試合



思い切って若手を起用してみた



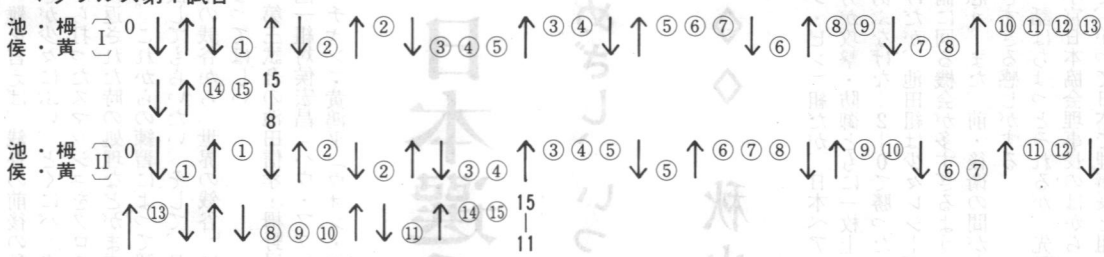
遠井監督

遠井稔男監督の話…シングルスに土田、ダブルスに飯野・土田組という若手を思い切って使ってみた。シングルスでは、栂野尾を、スタミナのことも考えて外し、ダブルスに専念させようと思った。もう一人、本間を温存したのは、チーム内の公正な競争を考えたからだ。実際、土田の伸びも相当なものだ。

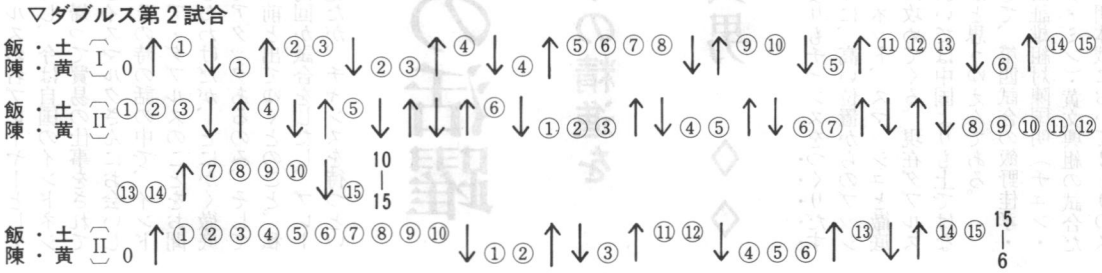
ダブルスの成績はまあまあといえるだろう。ただ、池田の出来はちょっと悪かったようだ。飯野・土田組は、もちろん万全ではないし、現時点で、ほかにこのチームより強いペアを求められないわけではない。しかしこの組にはクセがなく、また将来の伸び、ということを考えると、使えるうちから使うべきだと思った。

チームの構成全体は、もちろん、これで決まったわけではない。対韓国戦以降、メンバーの変更、ペアの組み替えなどがないとはいえない。どの選手にも門戸を開放し、伸びる余地、努力する余地を残しておくのがチームづくりの要諦だと思う。

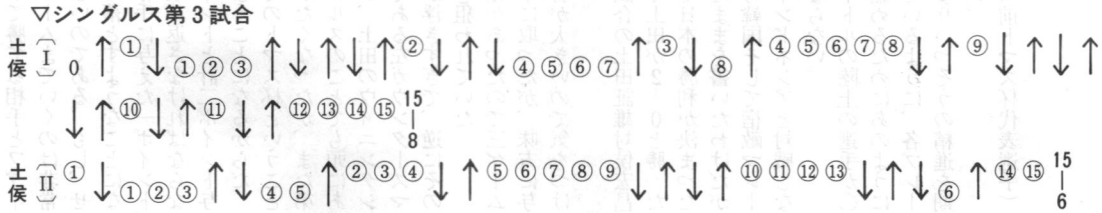
▽ダブルス第1試合



▽ダブルス第2試合



▽シングルス第3試合



力強い日本選手の活躍

——世界をめざし、いっそうの精進を

●観戦記●

◇◇ 秋山真男 ◇◇

去る9月20日、21日の両日、残暑きびしい東京の代々木第二体育館において、第10回世界バドミントン選手権（トマス杯）大会アジア東地区予選会、日本対香港の試合が行なわれた。

試合前、さまざまな推測が乱れ飛び、香港チームは中国選手で再編成したとか、また、今でも私たちの脳裏に強烈に焼きついている世界最強の男＝侯加昌の実弟がいるのでかなりやるのではないか、という予想が強かった。

しかし、いざフタをあけてみると、体力（スタミナ）、技術にまさる日本チームが、初日4—0、二日目5—0と一試合も落とすことなく、9—0の圧勝に終わってしまった。

しかし、世界制覇という大義のもと、完勝ではあったが、日本チームの問題点等をおりまぜ、第一試合、小島一平対楊美良（ヤン・メイ・リャン）の対戦からふり返ってみよう。

さすが両国エースの対戦だけに、第一ゲーム前半のラリーの応酬はすばらしく、そこだけで二十分以上も費やした。

とくに香港チームが自信をもって送った楊の力強いスマッシュや同一フォームからの各種ストロークは一昨年来日した中国選手をほうふつさせてくれるに十分であった。

しかし日本のエース小島は、さすがにたび重なる激戦の勇者である。前半までピッタリとついてゆき、楊がわずかにひるんだところを見逃がさず、一気にポイントを引き離し自分のペースにもっていったあたりは完璧であった。

全盛期に近い動物的カンが随所に表われていたのには力強い難を言えば、銭谷の前後の動きが少々にぶい、とくにバックから打ったスマッシュをクロスに返された時の処理などがまずい。これからの練習によって解決してもらいたい。そして、日本の銭谷から「世界の銭谷」になってほしい。

第三試合の池田信孝・栂野尾昌一組対侯宏昌（ハウ・ファン・チャン）・黄鴻平（ウォン・フン・ピン）組だが、日本ペアの方が攻撃・防御ともに一枚上で、あぶなげなく2—0で勝ったわけだが、池田組は少々レシーブ側に回る機会が多すぎるように思う。また、前・後衛の間があきすぎる感じがする。

話はちょっとそれるが、先日小宮日本協会理事長のはからいで、かって日本で理事長と組みダブルスの名プレーヤーとしてならし、今は自国のインドネシアに帰って貿易の仕事をされているイスマルクさんにお会いした。その時の話の中で、インドネシア・ダブルスのことをお聞きしたわけだが、とにかく徹底してアタックあるのみ、そして前へ前と出てゆくとのこと。私も何回か試合をしたし、プレーも見たが、チャンスを待つというよりもチャンスをつくりだすように、高い位置からのプッシュ、ネット、スマッシュと徹底的に攻めてくる。現在ダブルスにおいては中国よりも上ではないかと思うゆえんである。

さて、第四試合の飯野佳孝・土田証雄組対陳国明（チェン・コク・ミン）・黄文興組の試合だが、団体戦において2—0のストレートで勝てる相手とファイナル・ゲームまでいくのは非常によくないのである。もし、せり合って落とすようなことになれば、相手に与えた一ポイント、そして取り返さなければならない一ポイントと計二ポイント与えてしまうことになるからだ。

初めてのトマス杯ということで少しかたくなったか、また第三シングルスのことでも頭にあったのか、土田のウィニングショットである左カウンタースマッシュが浮きすぎで、逆にそのボールを狙われていた。

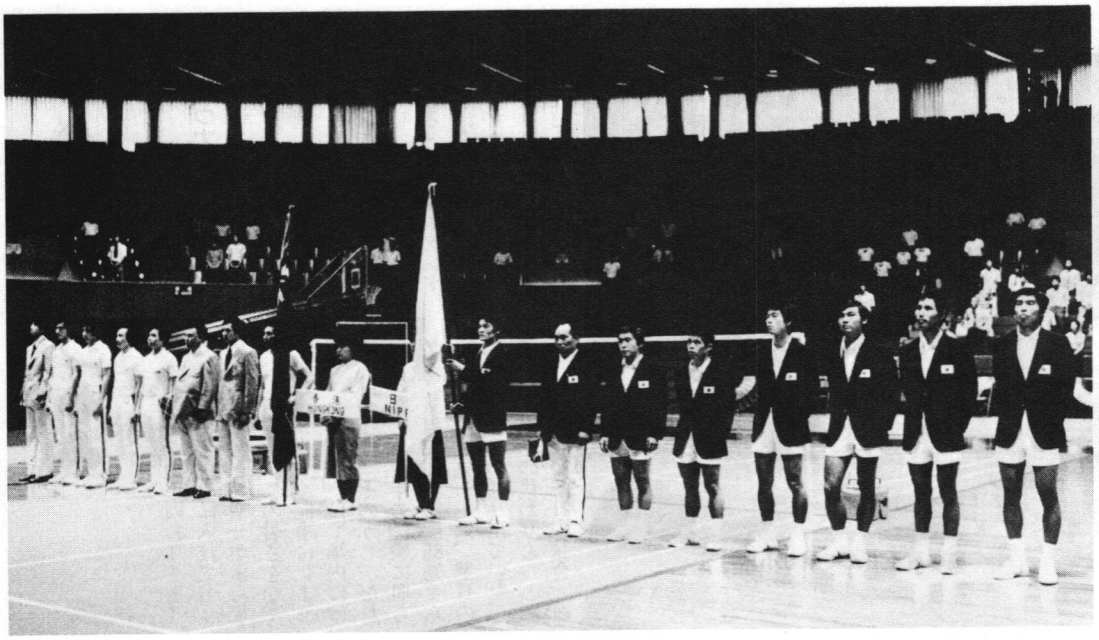
実力差があったので三ゲーム目は簡単に取ったが、味方に与える影響が大きいので気をつけてほしい。

第五試合の土田証雄対侯宏昌の試合で土田が2—0と勝ったところで日本の勝利が決まった。

感じたままを書いたわけだがこれから韓国そして宿敵マレーシア、インドネシアと対戦しなければならない。

百メートルの陸上の選手が〇・一秒縮めるためにあのように努力しているように、各プレーヤーのよりいっそうの精進を期待したい。

（前トマス杯代表選手）



＝香港チーム＝

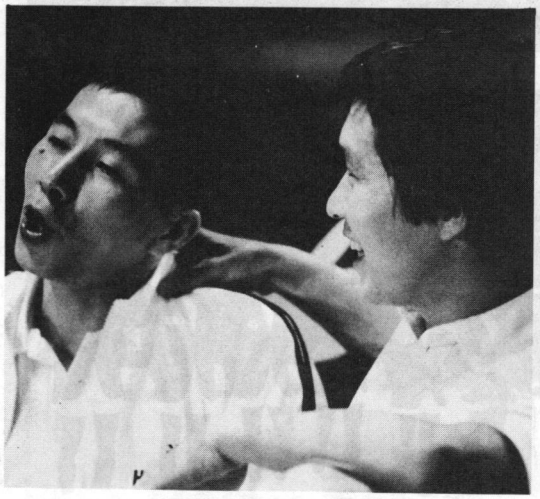
〈団長〉
ヤン・フォク
〈監督〉
ウン・チュー・コク
　香港バドミントン協会副会長
〈選手〉
楊美良（ヤン・メイ・リャン）
　1973－74年単1位，複2位
　1974－75年単1位，複3位
侯宏昌（ハウ・ファン・チャン）
　1973－74年複1位
　1974－75年単2位，複2位
黄鴻平（ウォン・フン・ピン）
　1973－74年複1位
　1974－75年単4位，複1位
陳国明（チェン・コク・ミン）
　1973－74年混合複3位
　1974－75年複1位
黄文興（ウォン・マン・ヒン）
　1973－74年複3位
　1974－75年複3位
ヤン・ポー・ティム
　1973－74年単2位，複2位，混合複2位
　1974－75年複4位
チェン・チュー・シン
　1974－75年単3位，複4位
フー・ホン・ピン
　1974－75年複2位

＝日本チーム＝

〈監督〉
遠井稔男（とおいとしお）
　日本体育大学出身，日本バドミントン協会常務理事，栃木県小山城南高校教員
〈コーチ兼選手〉
小島一平（こじまいっぺい）
　中央大学出身，1973年単1位，1974年単3位，ラケットショップ元町勤務
〈主将兼選手〉
池田信孝（いけだのぶたか）
　法政大学出身，1973年複1位，1974年複1位，日本電信電話公社勤務
〈選手〉
栂野尾昌一（とがのおしょういち）
　法政大学出身，1973年単3位・複1位，1974年単2位・複1位，ヨネックス・スポーツ株式会社勤務
本間順次（ほんまじゅんじ）
　中央大学出身，1973年複3位，1974年単3位・複2位，トヨタ自動車工業株式会社勤務
飯野佳孝（いいのよしたか）
　日本大学出身，1973年複2位，1974年複3位，ヨネックス・スポーツ株式会社勤務
銭谷欽治（ぜにやきんじ）
　中央大学出身，1973年単2位，1974年単1位，河崎ラケット工業株式会社勤務
土田証雄（つちだまさお）
　新潟県立三条商業高校出身，1973年複2位，1974年複3位，日本大学商学部4年

♥◆ヘアピン♠♣

—闘い終えて—



楊の肩をもんでやる小島

タダでサウナにはいれる…

○…大会が行われた二十、二十一日は、例の異常気象で、真夏並みの暑さが続いていた最中だから、外気でも30度を越していた。しかし、風が入ればシャトルが流れるとあってスタンド最上段の窓は全部、締め切り。このため、プログラムは観客のウチワ代わりに早変わりしたが、それでも汗だくだくと流れて止まるところを知らぬありさま。

「タダでサウナに入れてありがたい」などと、やせがまんしていた報道陣、この暑さをなんとかわかりやすく記事にしようと思ったが、あいにく場内には気温計がない。そのうち、だれいうとなく「長年の経験に照らして、気温33度、湿度85%ぐらいだな」に意見が一致、翌日の新聞には、その通り出ていた。記者は気象庁の代わりもつとめるらしいが、第二日の試合の途中、ベンチを立って来た香港の副会長さん「こりゃ、40度はありそうですな。香港もかなり暑いが、これほどすごくはありません」

東南アジア諸国では、シャトルが流れるのを承知の上で、窓を開けていますがねェ。

楽勝も痛しかゆし

○…毎度のことながら?日本協会の手不足、力不足で大会の事前PRは、ほとんどなし。ある役員が「新聞に載ったのは、きょうの運動、という行事予定欄の一行だけ」といったほど。実際は、東京新聞の月間案内、報知新聞の週間案内などで活字にはなっていたから〝皆無〟ではないにしろ、さびしいかぎりだ。それでも二日間で二千五百人ほどの熱心なファンが来て、本誌「バドミントン界」も五十数部、売れたのだから、大したもの。いや、今後は万難を排して、会場を満員にするよう、努力してもらいましょう。

○…第一日を終わって、順当に4—0の快勝。これにがっくりして頭をかかえたのは日本協会の小宮理事長。あと1勝で日本の勝ちが決まるのでは、第二日にお客さんが来なくなる、と心配したのだ。記者席を訪れて「なんとかお客が来るようまく書いてもらえないかしら」

同じく「困った」を連発した組は、第二日の試合をビデオ放映することになっていた東京12チャンネル・テレビ。第二日の第一試合を日本が取れば、あとは気の抜けたカードになってしまうからだ。さて結果はどんな出来ばえだったか。ごらんになった皆さん、いかがでしたか。なお、前ユ杯選手の相沢マチ子さんは、この番組で解説ゲストをつとめたが、これはプロ転向後バドミントン放送の初仕事。

トマス・カップ



トマス杯（世界バドミントン選手権）大会はユーバー杯（世界女子バドミントン選手権）大会と同様に三年ごとに開催される男子の世界選手権大会である。

国際バドミントン連盟の初代会長（一九三四～三五）のジョージ・トマス卿がカップを寄贈されたのでトマス杯大会と呼ばれている。

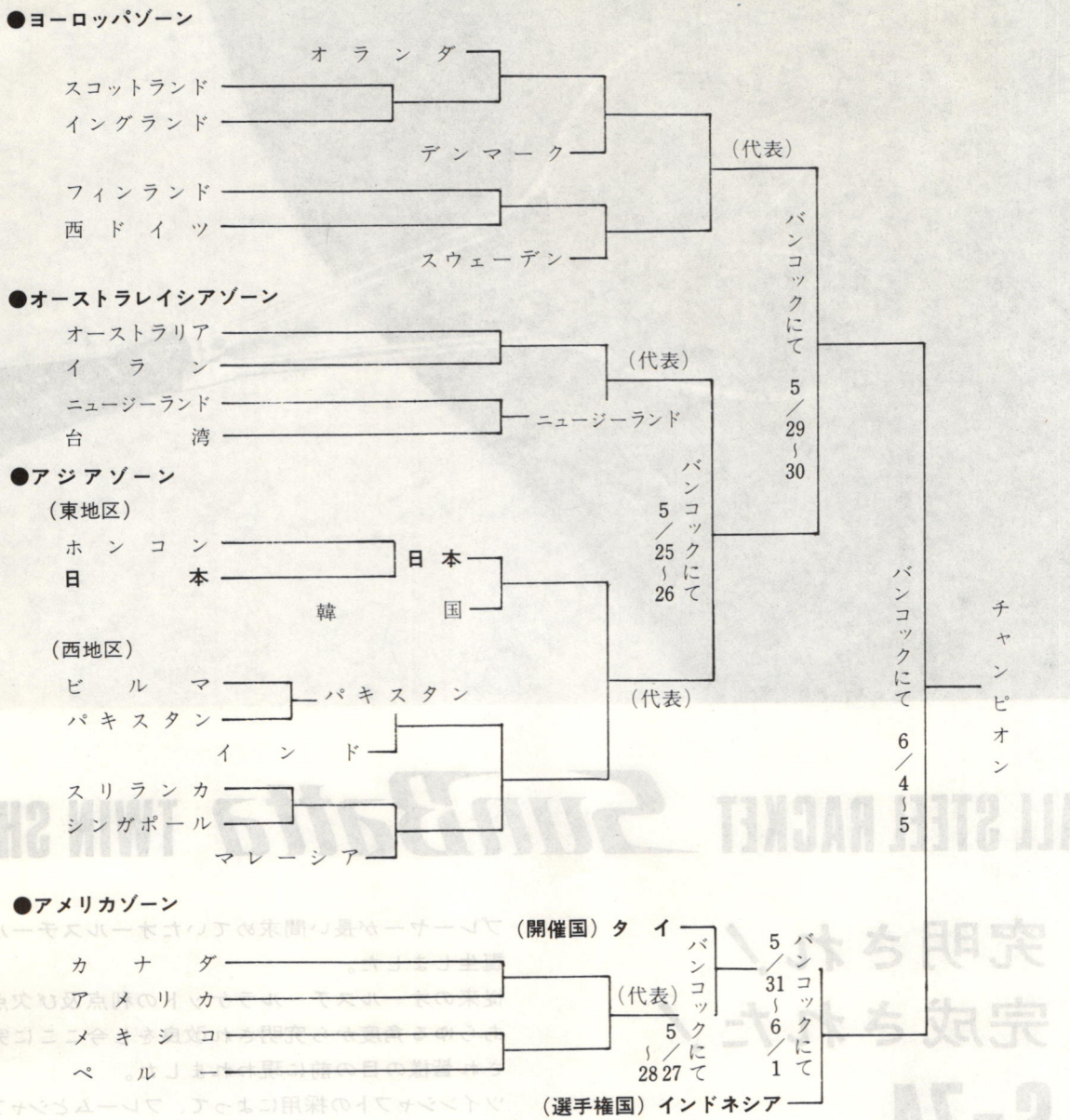
ユーバー杯大会と同じく、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラレイシアの四ゾーンに分け、それぞれのゾーンの優勝国と選手権保持国が試合開催地に集まり、インターゾーン戦を行って新たなチャンピオン国を決めるものである。

参加国は、どのゾーンに参加しても自由であるため、最も強い四か国が出場可能のシステムになっている。

このトマス杯大会における試合形式は、予選から決勝まで全く同じで、各国チームの選手は四名以上六名以内、五単四複の九試合を二日間にわたって行う。第一日はナンバー1同士、ナンバー2同士の単とナンバー1同士、ナンバー2同士の複を行い、第二日にはナンバー1対2、ナンバー2対1の単、ナンバー1対2、ナンバー2対1の複、ナンバー3同士の単を行って、5ポイント得た国を勝ちとするのである。

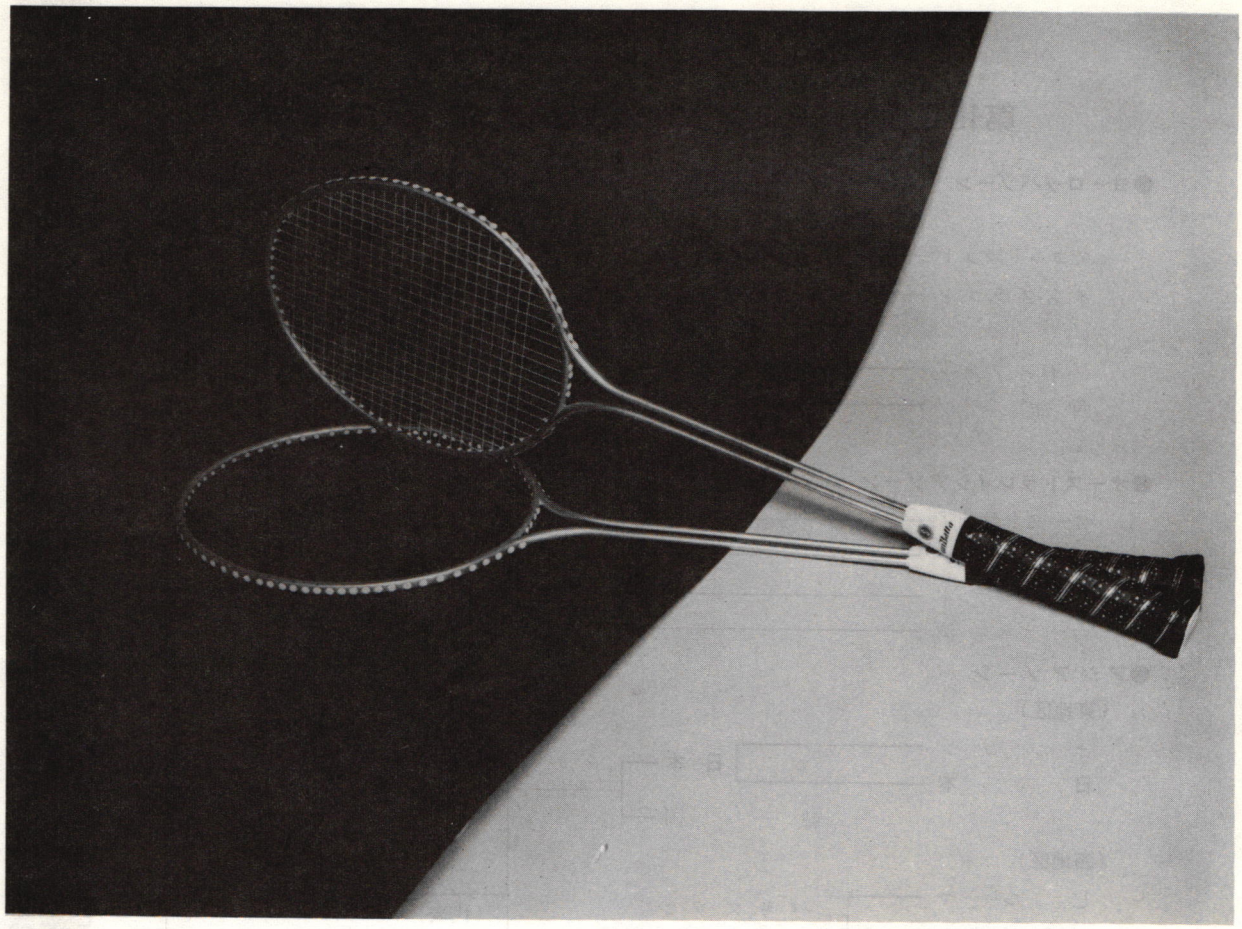
過去の成績および、今大会の組合せは次ページのとおりである。

第10回世界バドミントン選手権（トマス杯）大会組合せ



トマス杯大会・栄光のあと

回・年	参加国	チャンピオン国	回・年	参加国	チャンピオン国
第1回・1948～49	10	マラヤ	第6回・1963～64	26	インドネシア
第2回・1951～52	12	マラヤ	第7回・1966～67	23	マレーシア
第3回・1954～55	21	マラヤ	第8回・1969～70	25	インドネシア
第4回・1957～58	19	インドネシア	第9回・1972～73	23	インドネシア
第5回・1960～61	19	インドネシア	第10回・1975～76	26	?



ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

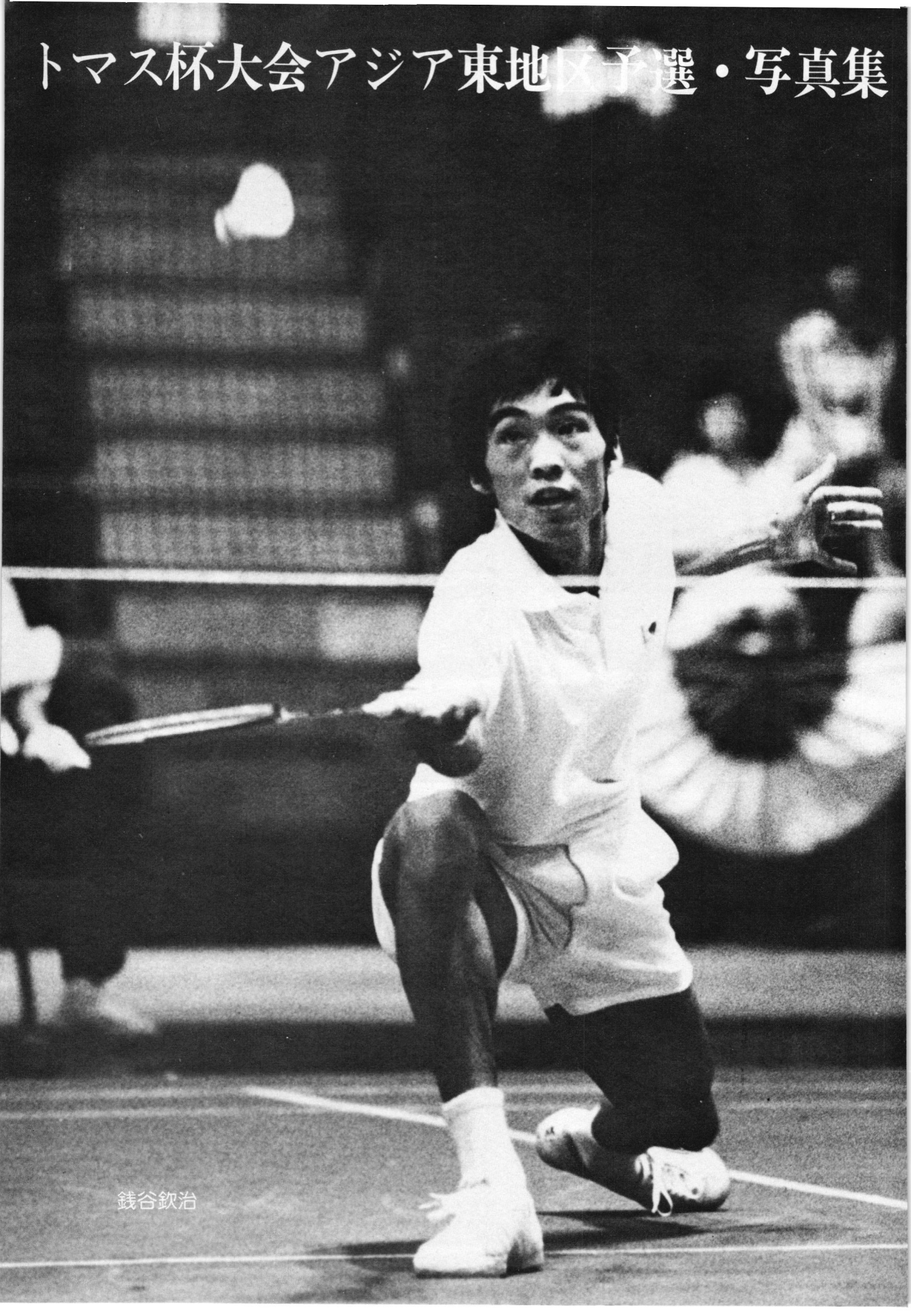
究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。

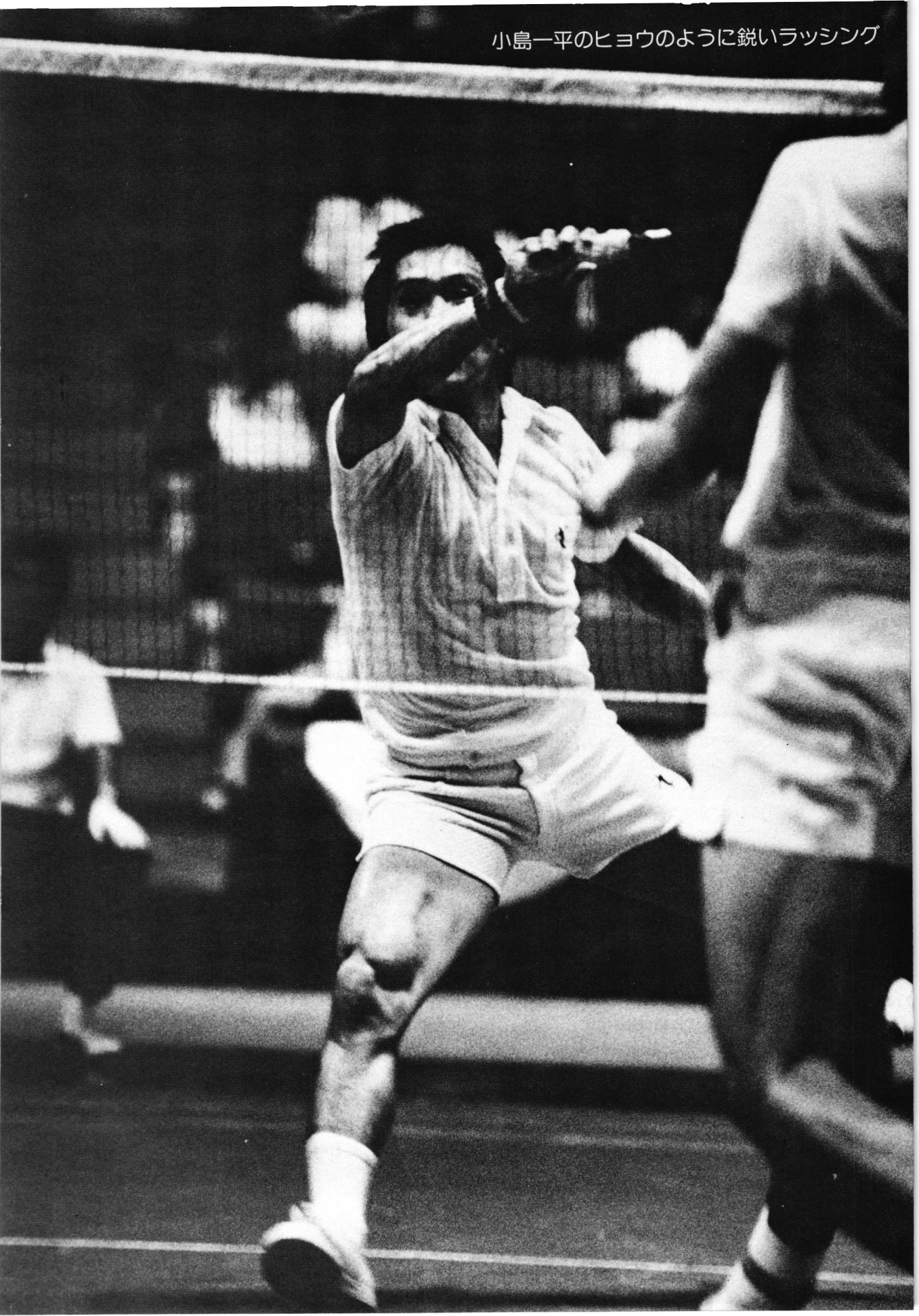
SunBatta TOKYO

サンバタ

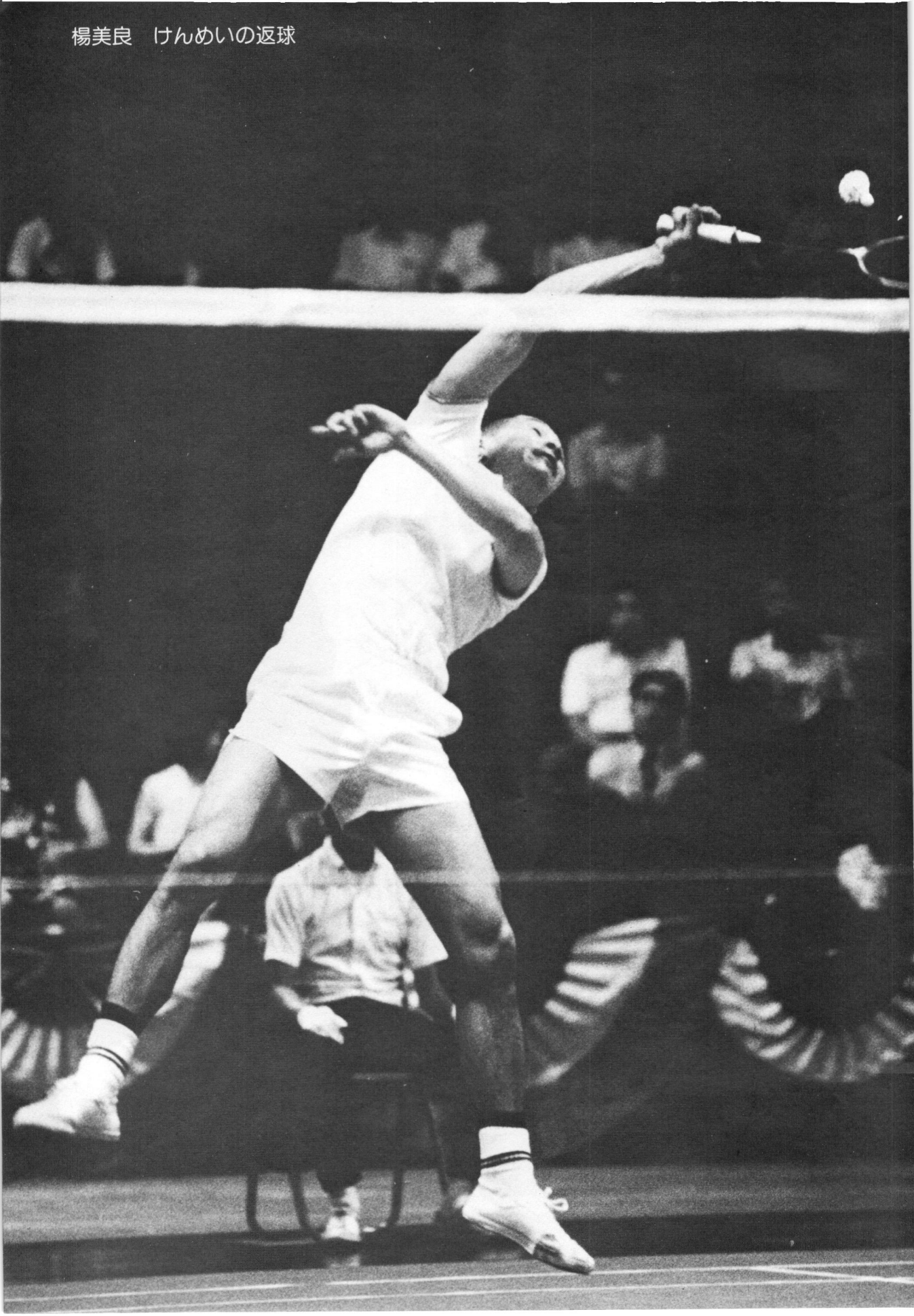
トマス杯大会アジア東地区予選・写真集

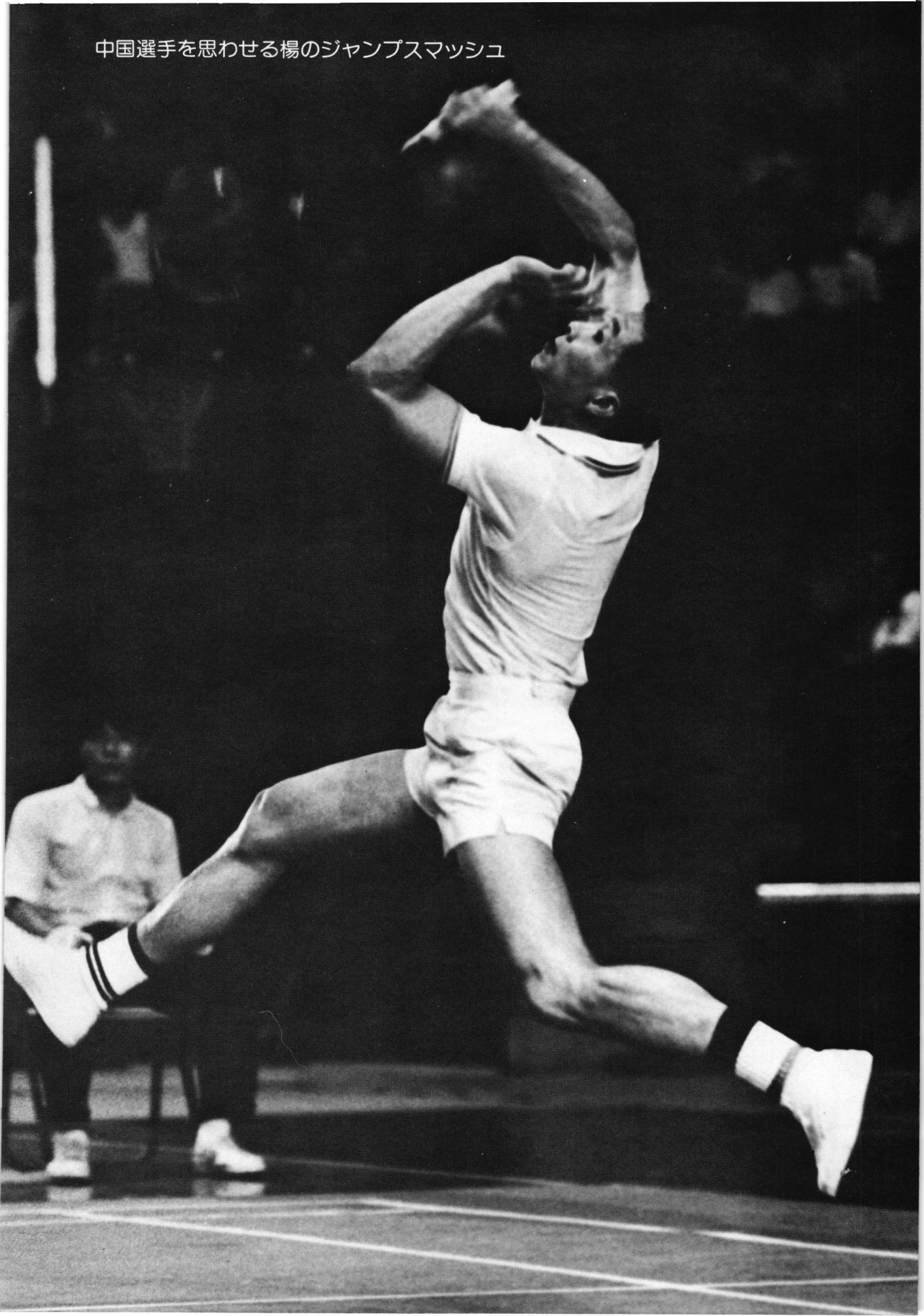


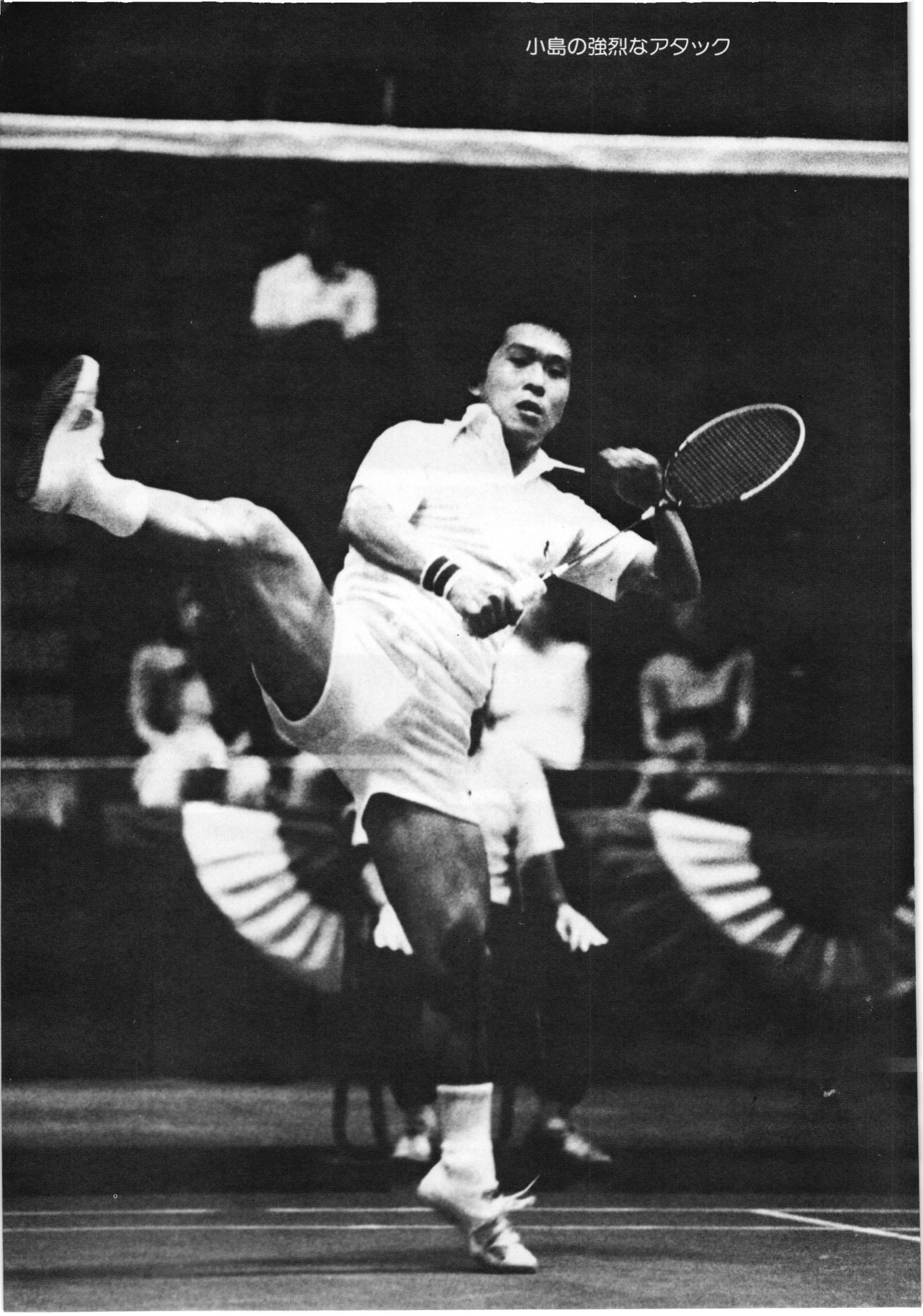
銭谷欽治


小島一平のヒョウのように鋭いラッシング

楊美良　けんめいの返球



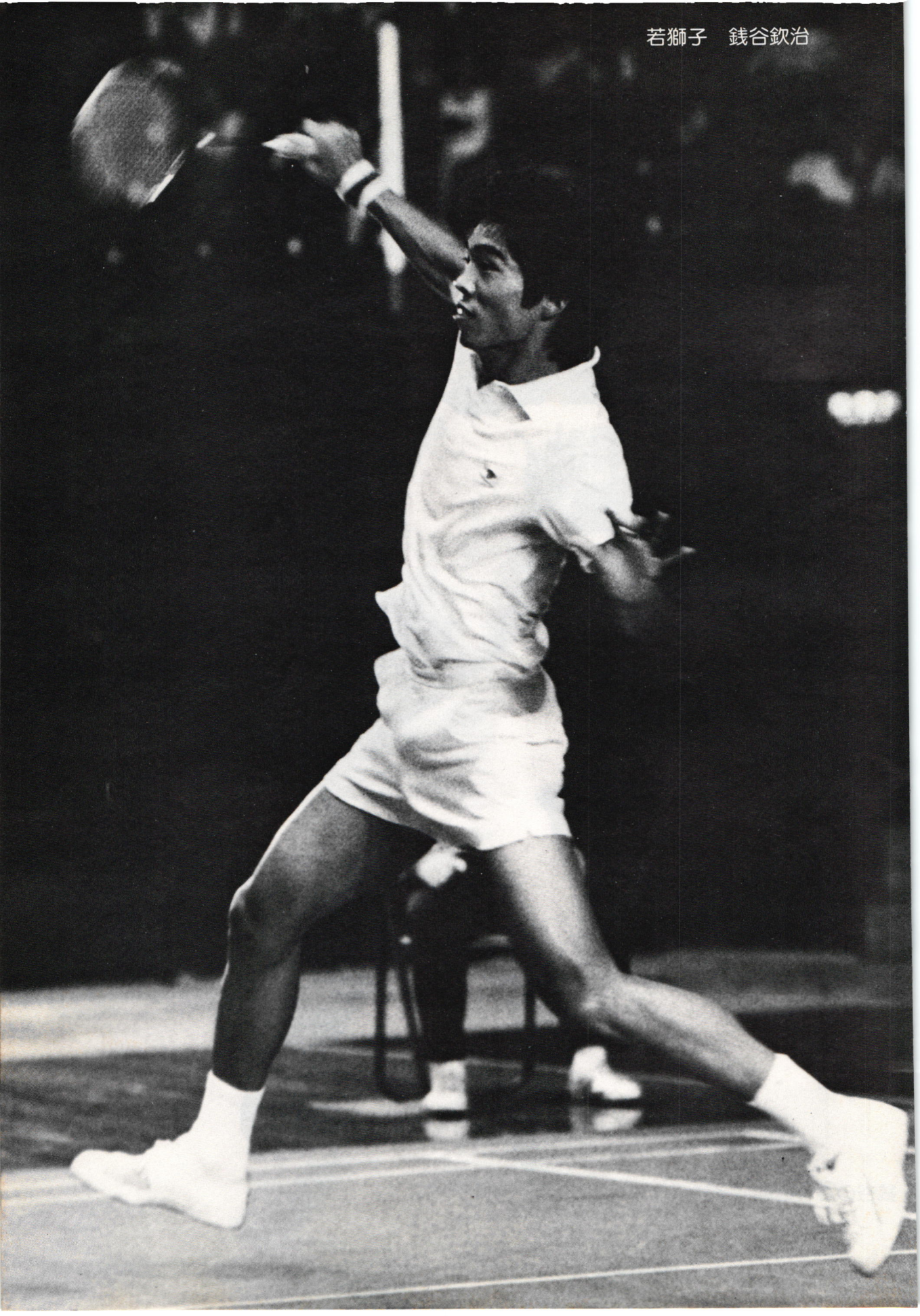

中国選手を思わせる楊のジャンプスマッシュ



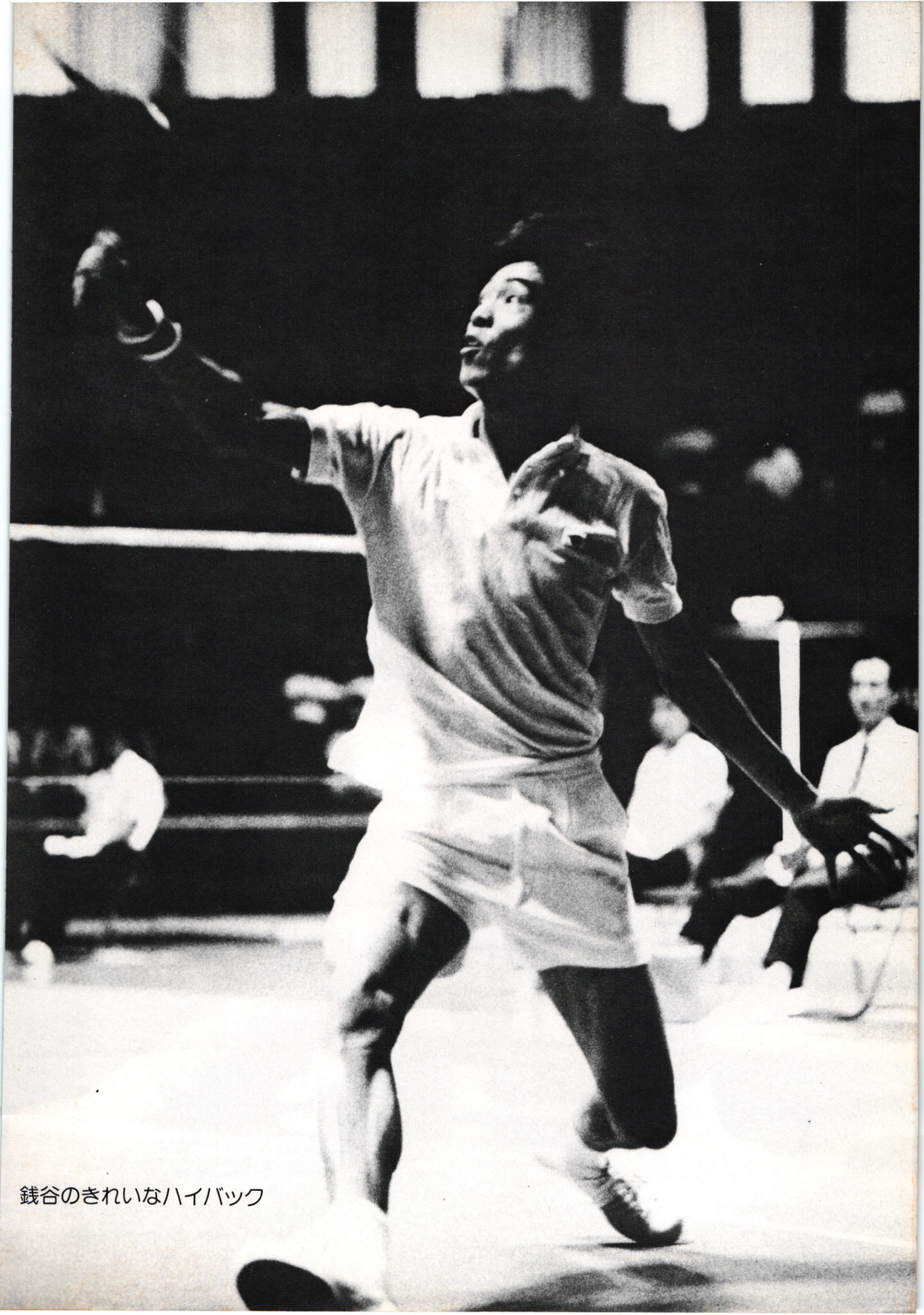
小島の強烈なアタック

楊のプッシュ，小島のボディに決まる

黄文興，銭谷のドロップショットを返せず

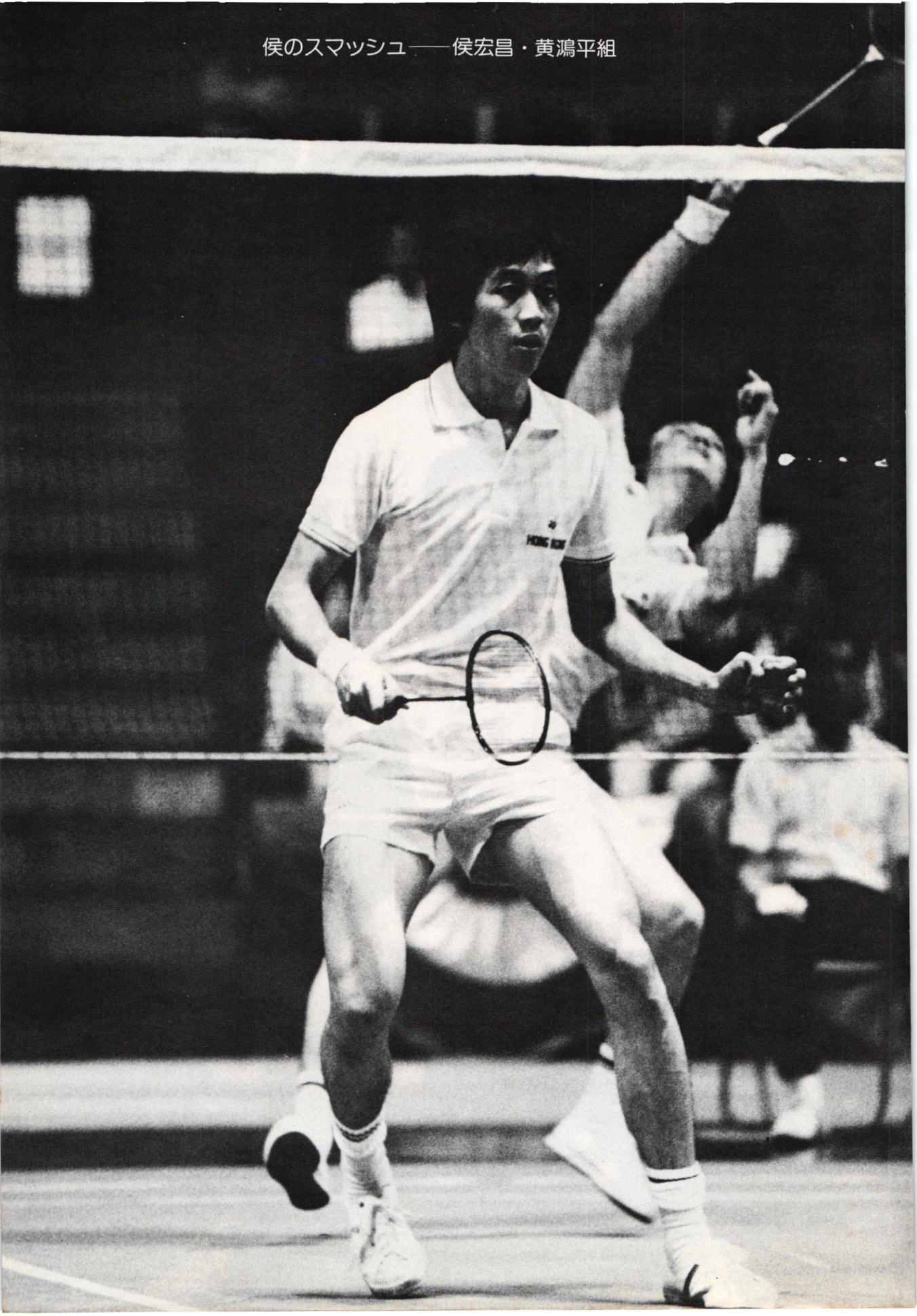


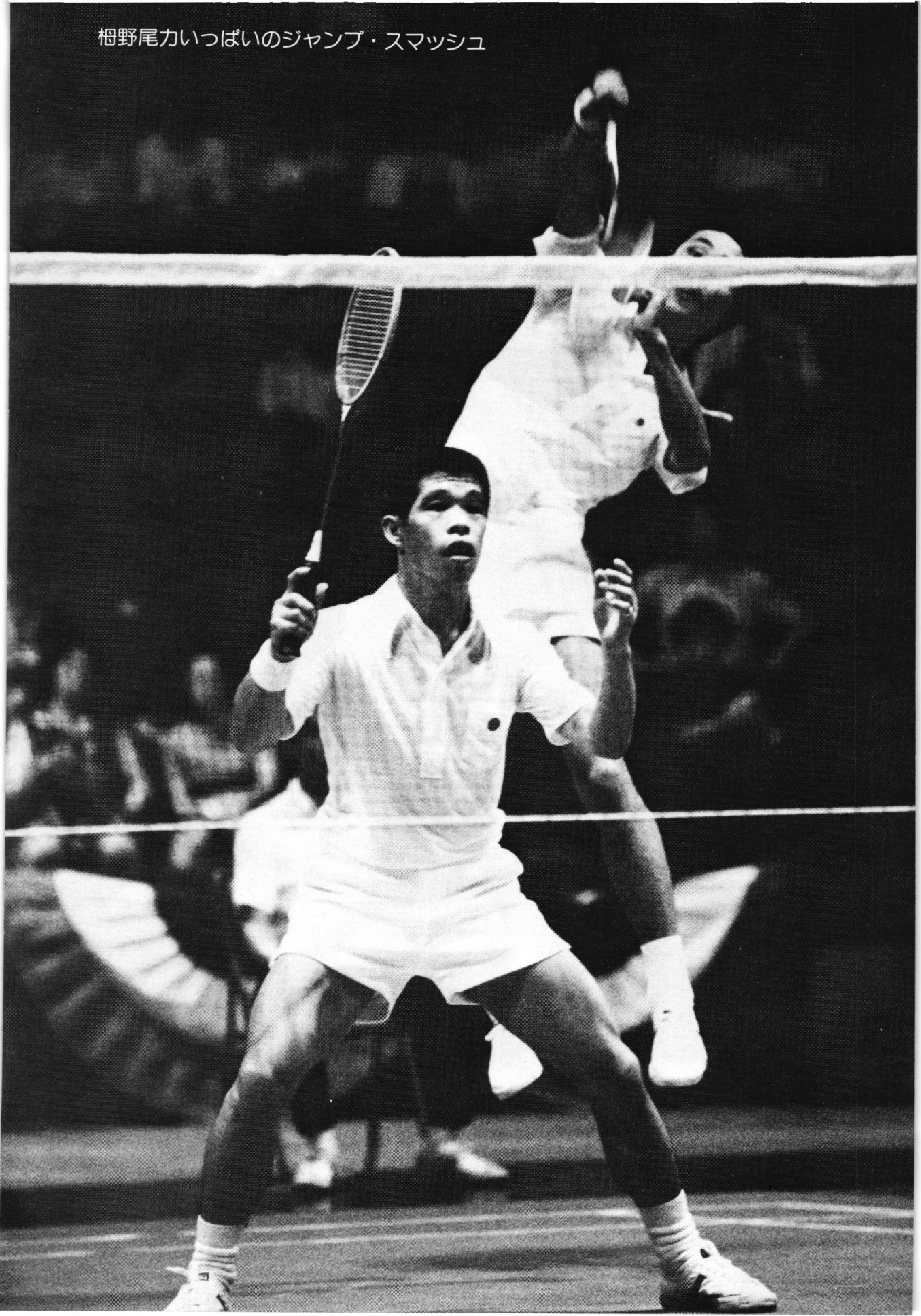
若獅子　銭谷欽治



銭谷のきれいなハイバック

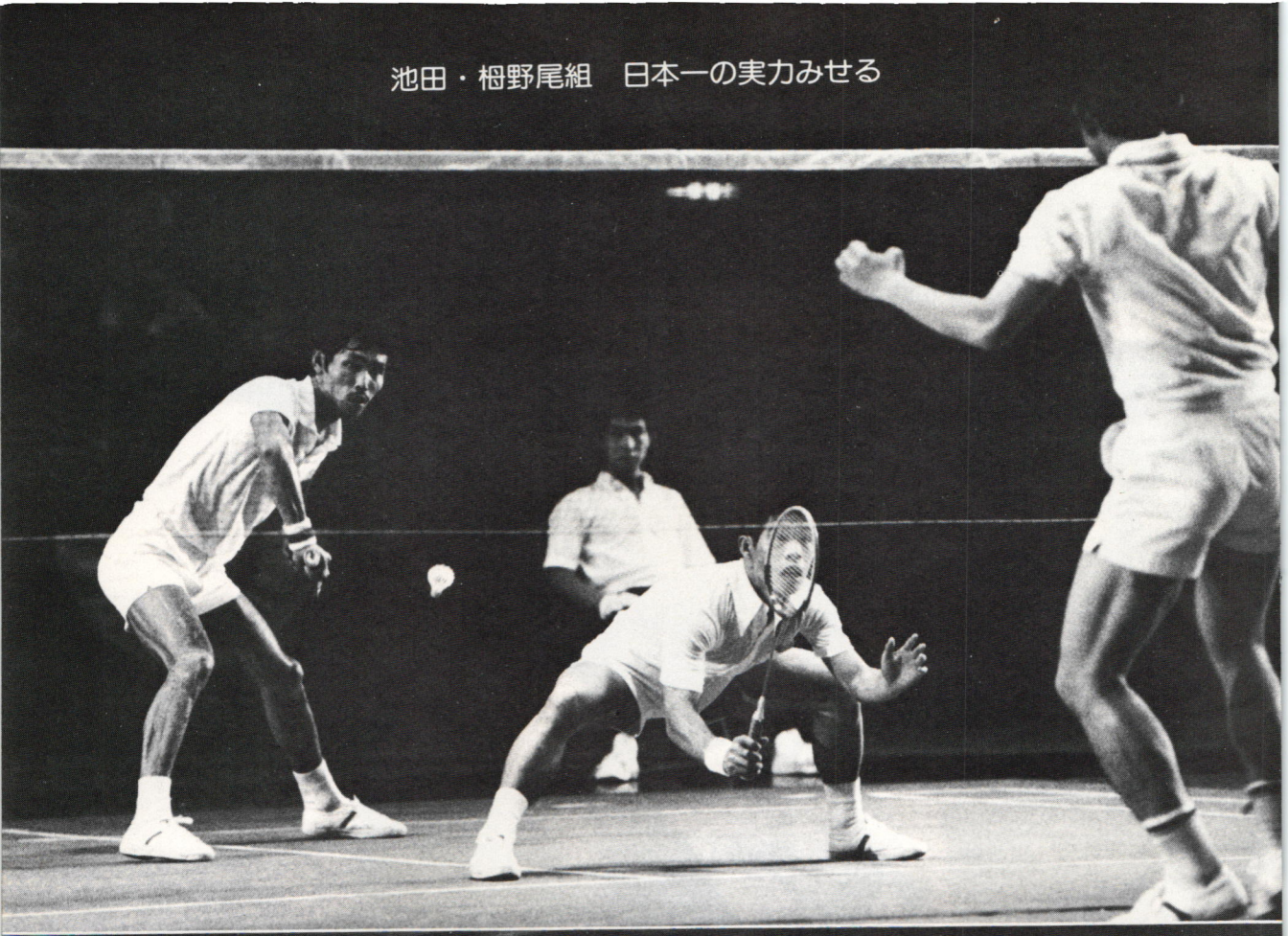
侯のスマッシュ――侯宏昌・黄鴻平組

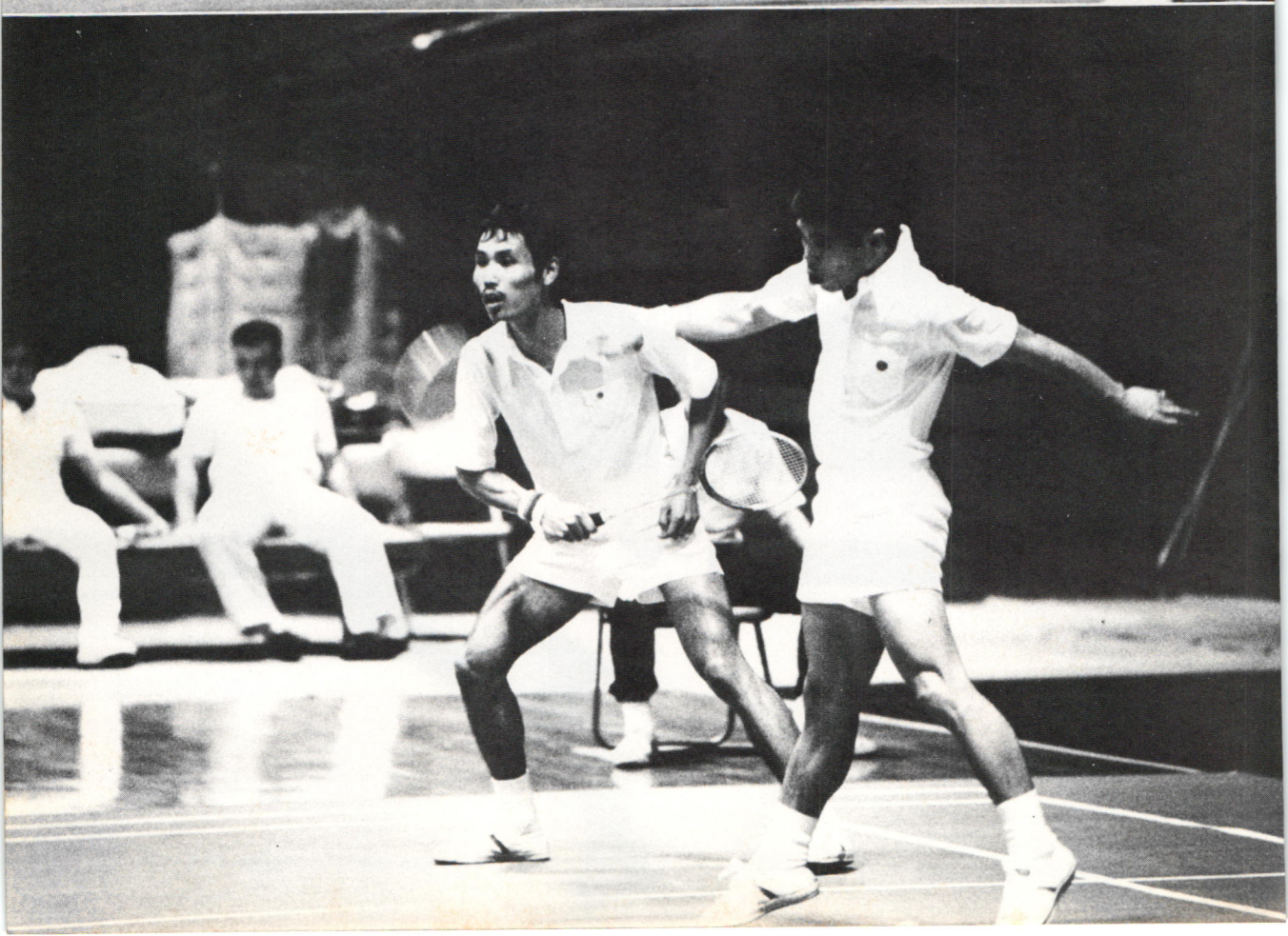




柯野尾力いっぱいのジャンプ・スマッシュ

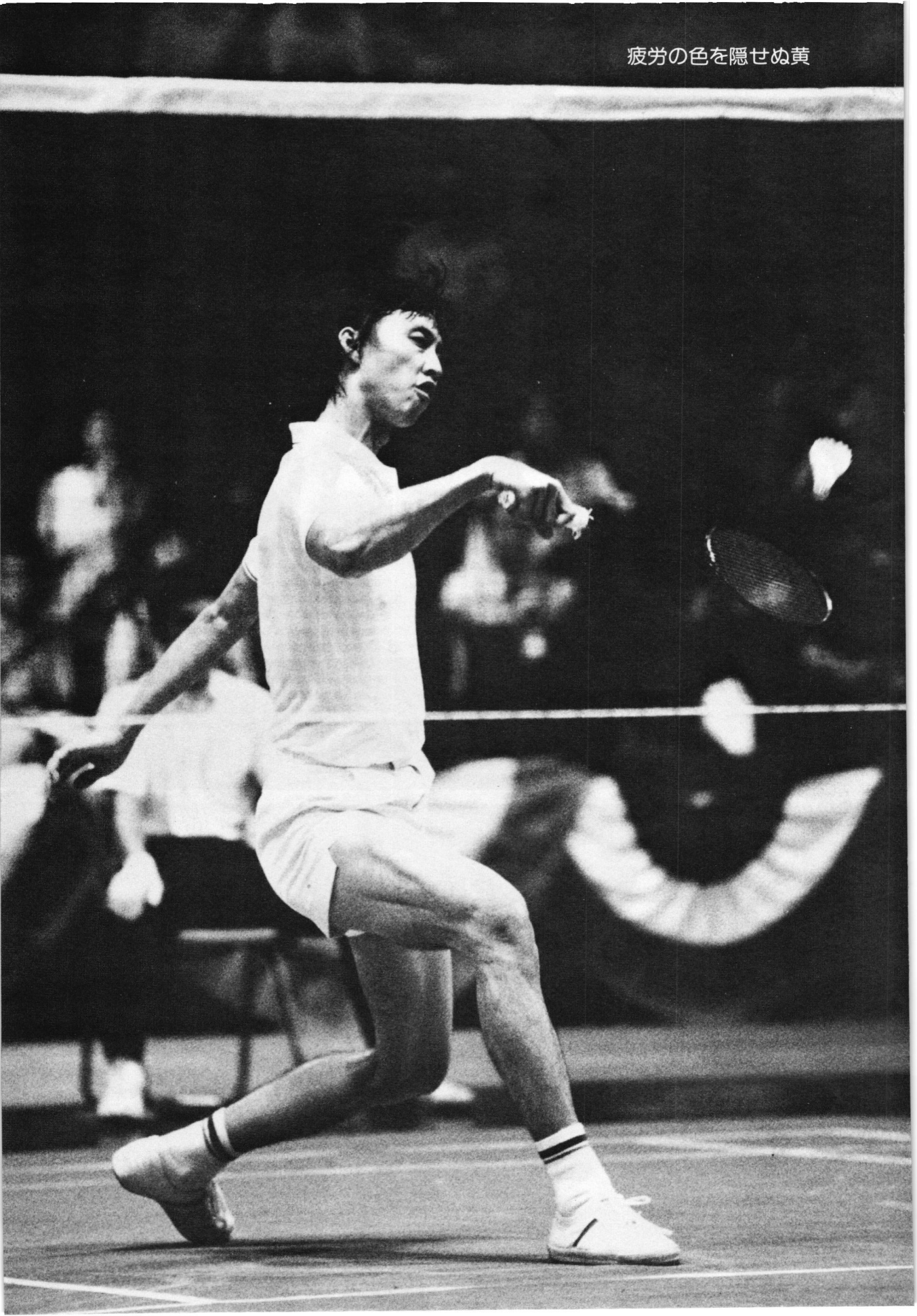
池田・栂野尾組　日本一の実力みせる







黄文興，スマッシュ沈まず


疲労の色を隠せぬ黄

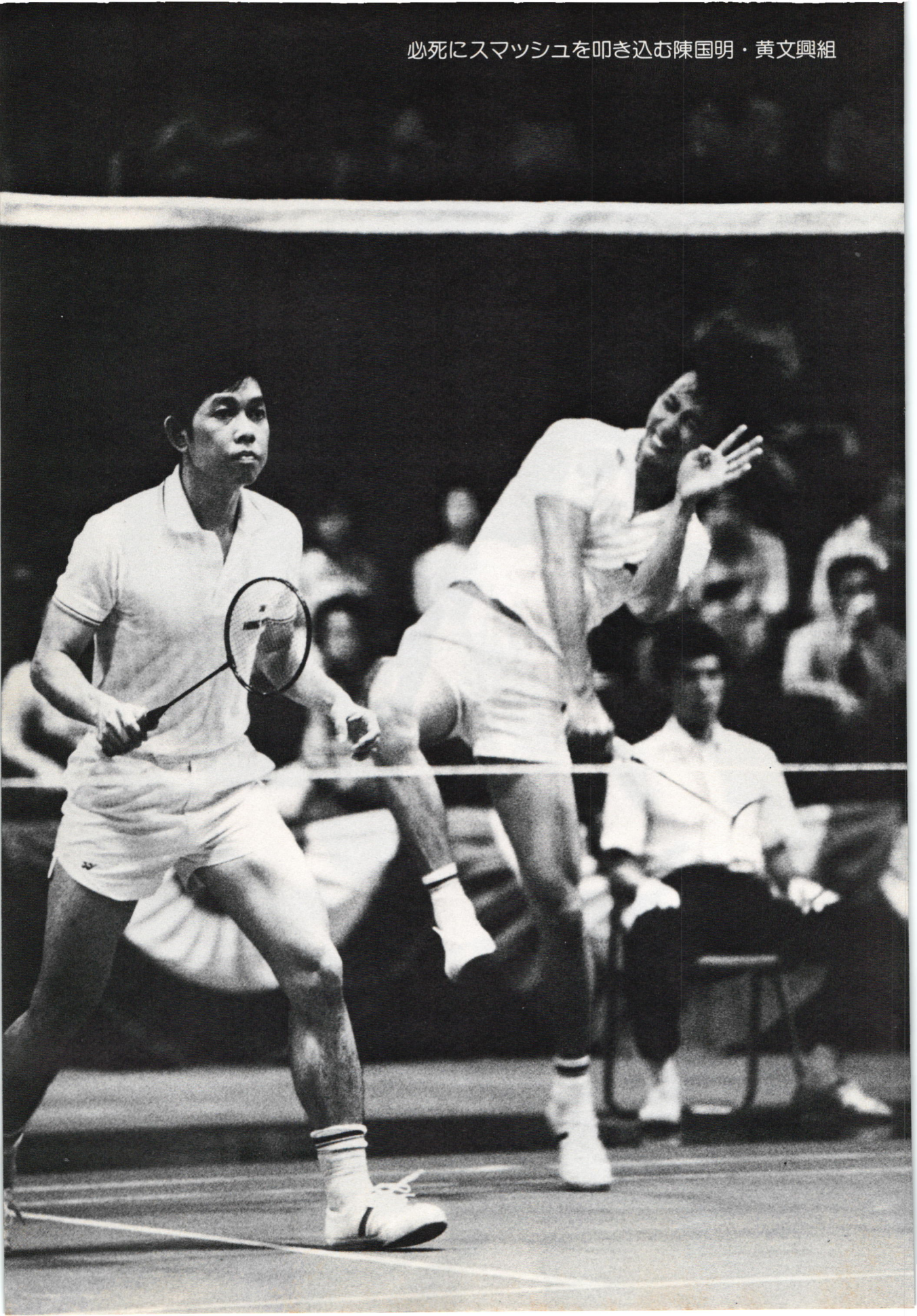


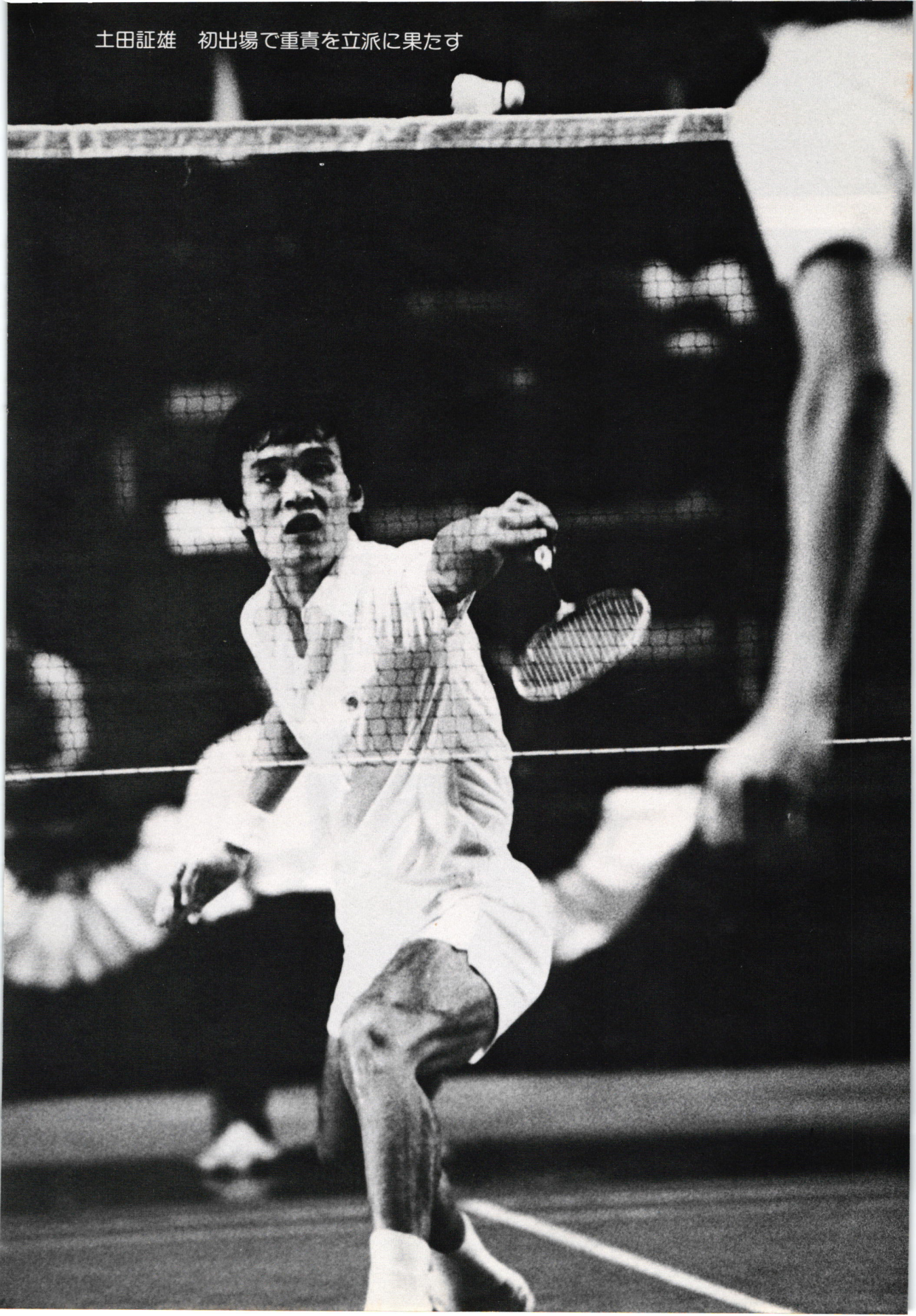
日本のスピードに苦しむ侯・黄組



飯野のプッシュ決まる

必死にスマッシュを叩き込む陳国明・黄文興組





土田証雄　初出場で重責を立派に果たす

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

湯木 シングルスで見事優勝

男子はリム・スウィ・キンが栄冠，プリは肉ばなれ棄権

◆男子シングルス

▽一回戦

梅野尾昌（マ） 2 15-11 15-4
小島一平 0 15-5 15-9

▽二回戦

リム・スウィキン（イ） 2 15-5 15-9
B・ジャイエン（タ） 0

▽準々決勝

S・プリ（ス） 2 15-10 15-4 11-15
B・ジャイエン（タ） 1

F・デルフス（デ） 2 15-13 15-11
P・A・ファ（マ） 0

リム・スウィキン（イ） 2 15-5 15-12
E・ハンセン（デ） 0

ジェームズ（マ） 2 15-5 15-9
ピチャイ（タ） 0

▽準決勝

デルフス 負傷棄権 4-6
プリ 権

キン 2 15-2 15-1
ジェームズ 0

▽決勝

キン 2 15-13 15-4
デルフス 0

◆女子シングルス

▽一回戦

湯木博恵 2 11-2 11-6
リュース・ケン（オ） 0

ビューセコム（オ） 2 11-6 5-11 11-2
竹中悦子 1

◆男子ダブルス

▽一回戦

小島・梅野尾 2 15-9 15-3 5-15
スーン・チョン（マ） 1

▽準々決勝

チュンチユン・ワジュディ（イ） 2 15-2 15-10
ジェームズ・ホー（マ） 0

ジャイエン・ピチャイ（タ） 2 15-6 16-18 15-7
マイボルト・ブラウン（独） 1

チャンドラ・クリスチャン（イ） 2 15-5 15-8
リャン・レオン（マ） 0

▽準々決勝

湯木 2 11-7 11-8
タティ 0

タティ 5 11-4 11-5 5-11
ベック 1

湯木 2 11-0 11-4
ギルクス 0

ベック（英） 2 11-1 11-0
S・ウン（マ） 0

タティ（イ） 2 12-9 11-0
ビューセコム 0

ギルクス（英） 2 11-8 12-10
ウタミ（イ） 0

テレシア（イ） 2 11-2 11-1
湯木 0

▽決勝

チャンドラ・クリスチャン 2 15-5 15-8
プリ・カ 0

小島・梅野尾 2 17-14 15-3
ガード（ス・デ） 0

ジャイエン・ピチャイ（タ） 2 15-6 16-18 15-7
マイボルト・ブラウン（独） 1

チュンチユン・ワジュディ（イ） 2 15-2 15-10
ジェームズ・ホー（マ） 0

小島・梅野尾 2 15-9 15-3 5-15
スーン・チョン（マ） 1

◆女子ダブルス

▽一回戦

ギルクス・ベック（英） 2 15-3 15-8
ホーン（マ） 0

湯本・竹中 2 15-10 15-10
タティ・ウタミ（イ） 0

▽準々決勝

チュンチユン・ワジュディ 2 15-11 15-12
チャンドラ・クリスチャン 0

チャンドラ・クリスチャン 2 15-11 15-7
小島・梅野尾 0

チュンチユン・ワジュディ 2 15-4 15-5
ジャイエン・ピチャイ 0

▽決勝

ビューセコム・リユースケン（オ） 2 15-12 15-12
キングマ・パタマ（タ） 1

イメルダ・テレシア（イ） 2 15-12 15-11
ガードナー・ジズマン（英・独） 0

ギルクス・ベック 2 15-5 15-4
湯本・竹中 0

イメルダ・テレシア 2 15-5 17-18 15-9
ビューセコム・リユースケン 1

ギルクス・ベック 2 15-3 15-6
イメルダ・テレシア 0

◆混合ダブルス

▽準々決勝

ハンセン・ウン（デ・マ） 2 18-16 15-9 9-15
小島・湯木 1

カガード・ビューセコム（デ・オ） 2 15-7 15-8 13-15
カールス・トレム・リユース・ケン（ス・オ） 1

クリスチヤン・レ（イ） 2 15-8 15-7
マイボルト・ジズマン（独） 0

タルボット・ギルクス（英） 2 15-7 15-10
梅野尾・竹中 0

ハンセン・ウン 2 15-2 15-12
カガード・ビューセコム 0

クリスチヤン・レ・タルボットギルクス 2 15-11 15-7
0

▽決勝

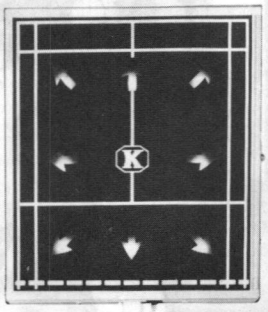
クリスチヤン・レ・ジナ 2 15-5 15-7
ハンセン・ウン 0

〔国名略称〕マ＝マレーシア、イ＝インドネシア、ス＝スウェーデン、タ＝タイ、デ＝デンマーク、オ＝オランダ、英＝イギリス、独＝西ドイツ



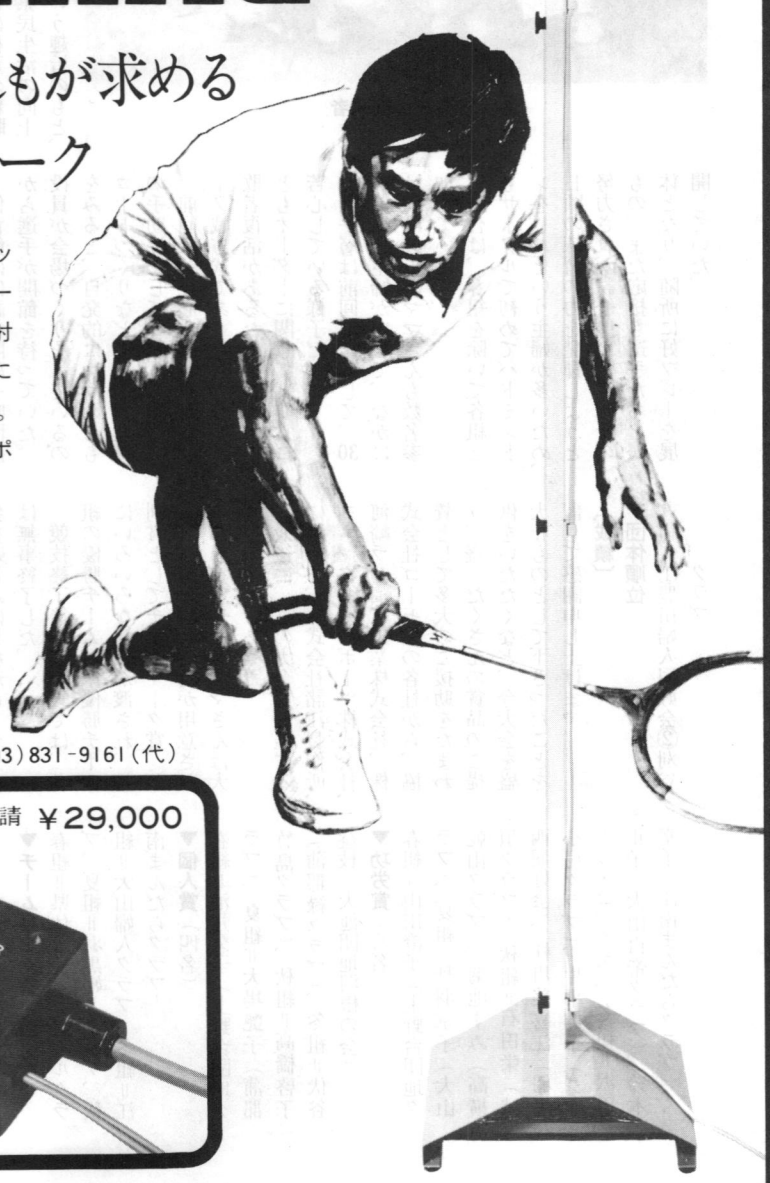
BADMINTON TRAINING MACHINE

バドミントン
トレーニング
マシン



プレイヤーの誰れもが求める
華麗なるフットワーク

右に左にとシャトルを追うそのフットワーク。このバドミントントレーニングマシンは、プレイヤーの反射神経を高め、敏捷性を養うために造られたフットワーク練習機です。明日への試合のために各有名スポーツ店にてお求めください。



カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5　TEL(03)831-9161(代)

実案・意匠申請　¥29,000



第二回愛知県家庭婦人バドミントン大会

お母さん！がんばれ

選手・役員の協力によって大成功のうちに終了

伊藤鉱一
（愛知県協会副理事長）

昨年夏第一回愛知県家庭婦人バドミントン大会が開催されて以来、県下各地域でママさん同好会が急激に増加し、昨年まで20余のサークルが30余に発展してきた。

愛知県協会も普及委員会が中心となって指導している関係もあり、年間行事の一環に組み入れ、「日ごろスポーツを行なう機会の少ない家庭婦人の方々にバドミントンを通じその機会を与え、家庭生活に必要な体位と体力の増強ならびに相互の親睦と融和を図り、県民生活の向上に寄与する」という趣旨のもと、中日新聞社の共催をえて、8月10日名古屋市体育館に25チーム、約300名の参加者を集め、第二回愛知県家庭婦人バドミントン大会を開催した。



喜びの受賞者

体育館には試合開始一時間前から選手が開館を待っていた。役員が会場づくりをしているのをみると、自発的にママさんもコートづくりなど応援し、役員の手助けをしていた。

前回の試合形式は各組ともリーグ戦方式であったが、今回は敗者復活があるため、各チームともオーダーに関して、非常に苦心している様子だった。

選手層は前回と比較して、30歳前後の主婦が中心で、なかには50歳以上のママさんも数名参加していた。

試合は、春組を除いて各組ともサークルで初めてバドミントンをしたという主婦が多いため、日頃の練習の力を発揮しようと努力され、試合態度は真剣そのもの。また応援も選手たちと一体となり、随所に好プレーを展開していた。

各組に協会普及委員会の委員を責任者としておいて進行させ、試合が終ったあとは、技術指導をするなど、今後の練習方法に役立てようと図った。来年の大会を楽しみにしながら、今大会は無事終了した。

競技終了後の表彰式では、各組の優勝チーム、準優勝チームにいろいろな賞品が渡され、特別賞としてチームワーク賞、個人賞、および功労賞が用意され思わぬ賞を受けるママさんは大喜びの様子であった。

最後に、この大会を開催するに当たり、株式会社諸江製作所、ヨネックス・スポーツ株式会社、河崎ラケット工業株式会社、株式会社ゴーセンの各社から、協賛として多大のご援助をたまわり、盛りだくさんの賞品のご提供をいただくなど、今大会を盛大なものとして下さったことを記して感謝申し上げます。

〔成績〕

▼団体順位

春組＝①豊田婦人同好会②刈谷クラブ
夏組＝①名城同好会②高横須マクラブ
秋組＝①豊田ひまわり会②江南藤柴会
冬組＝①中村公園スポーツクラブ②犬山白帝クラブ

▼チームワーク賞（四組）

春組＝県体女性インタバルクラブ、夏組＝羽黒婦人クラブ、秋組＝犬山婦人クラブ、冬組＝江南まんだらクラブ

▼個人賞（四名）

春組＝油井久子（上野台団地クラブ）、夏組＝大場艶子（蒲郡竹島クラブ）、秋組＝高橋啓子（蒲郡緑クラブ）、冬組＝伏谷益枝（大池団地羽根の会）

▼功労賞（八名）

春組＝山田澄子（上野台団地クラブ）、夏組＝丹羽京子（犬山乾山クラブ）、秋組＝石田栄（城西同好会）、桂川美喜江（羽黒小弓クラブ）、片平伸子（シャトル・コックス）、冬組＝沢田正子（犬山白帝クラブ）、鈴木幸子（江南まんだらクラブ）



なかなか迫力のあるスマッシュ

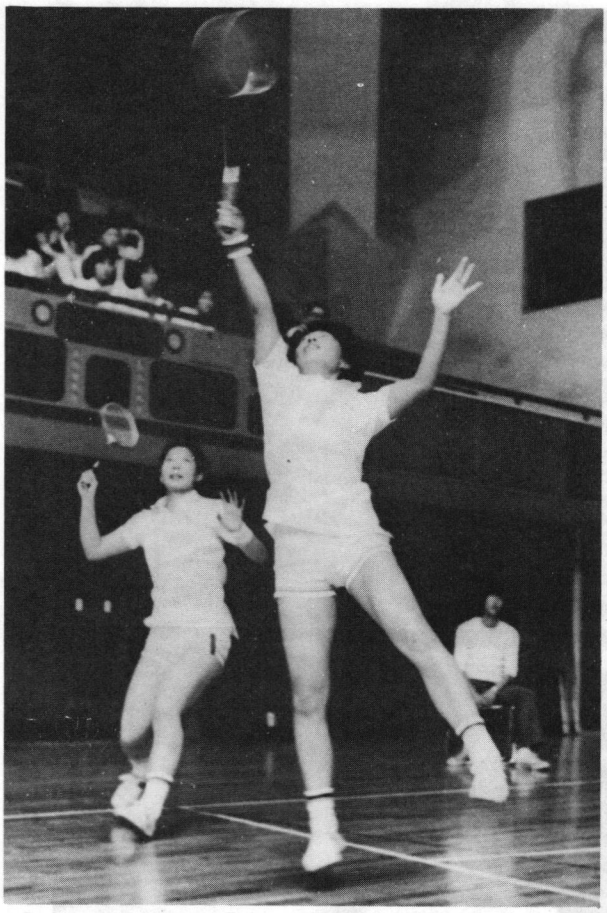


試合前のあいさつ



熱戦のもよう

昭和50年度東日本学生バドミントン選手権大会・決勝種目戦評



優勝した谷・井上組　©河北新報

◆男子シングルス

▽決勝

須藤（日体大）2（15－7、15－10）0栗原（日体大）

〔評〕 昨年の本大会の覇者であり今年の関東学生の覇者でもある松口（早大）をファイナルゲームの熱戦の末打破し、波に乗っている栗原と、ダブルスのパートナーである須藤という日体大学の両エースの対決は、序盤、栗原のリードで始まったが、準決勝の対松口戦でかなり疲れている栗原は、7オールと追いつかれ、勝負を賭けてサイドラインぎりぎりへのスマッシュを打って出た。

しかし、須藤に拾いまくられ、一気にリードを許してしまった。リードされてからは、カットもクリアーもすべてコート後方に打ち上げるというレシーブになり、フットワークもベタ足となり、結局一ポイントもあげることなく第一ゲームを終了した。

第二ゲームにはいっても、対松口戦でみせた抜群のレシーブによる速いリターンも得意の粘りも発揮できず、栗原は0－5、2－7、5－9と終始リードを許してしまった。その後、気力でやや追い上げたものの、余力十分の須藤は15－10と逃げ切った。〈安田伸一（関西学連）〉

◆女子シングルス

▽決勝

高瀬（日体大）2（11－8、11－6）0千葉（日女体）

〔評〕 ダブルスですでに優勝を逃している千葉は、このシングルスにすべてを賭けた。そして、快調のすべり出しで4－0とリードしたが、さすがに連戦の疲れは隠せず、4－6と逆転された。その後、サーブ権のやりとりが続き、高瀬は力強いスマッシュで自分のペースに持ち込み、千葉もけん命のくい下がりをみせたが、スマッシュミスなどが目立ち、苦しくなり、高瀬のパワーに押しまくられ、第一ゲームは高瀬がにぎった。

第二ゲームにはいると千葉はうまい試合運びで5－1とリードしたが、またも高瀬の逆襲にあい、高瀬のスマッシュ攻撃に対し、千葉は決まらず、結局2－0のストレートで高瀬は初優勝をかざった。

〈岩上富美子（関東学連）〉

◆男子ダブルス

▽決勝

須藤、栗原2（15－7、15－7）0高木、渡辺（日体大）（早大）

〔評〕 昨年度の本大会で二位になった須藤・栗原組は今年も順調にコマを進め、決勝に進出してきた。

第一ゲームは両ペアとも簡単なミスが目立ち、高木・渡辺組が3－0とリードしたが、安定したレシーブとそつのない攻撃で須藤組はばん回し、中盤からは危げなく第一ゲームをとった。

第二ゲームも途中、7－5と高木組がリードしたものの、須藤組はボディ・アタック、相手の虚をつく攻撃で逆転に成功し、そのまま逃げ切った。

〈青葉伸昌（関西学連）〉

◆女子ダブルス

▽決勝

谷、井上2（15－10、15－12）0千葉、松田（日体大）（日女体）

〔評〕 第一ゲーム両者ゆずらず10オールの大接戦となったが、谷・井上組はこの混戦を抜け出すと一気に勝負を決めた。第二ゲームにはいると、千葉・松田組はロング・サービスを多用したが、これがかえって災いし、チャンスボールを与える結果となり、ストレートで谷・井上組が栄冠を手にした。

（なお、本大会の記録とランキング表は前号に既報）



松口



栗原



須藤・栗原組

日バ発50第62号
昭和50年10月1日

各　　位

日本バドミントン協会用具委員会
委員長　吹　田　修　一

下記の要領にて検定，審査致します

1．シャトル　日本バドミントン協会用具委員会シャトル検定基準による。
2．ネット　競技規則により従来の方法で行なう。
3．ポスト　(a) 長さ　(b) 経については実測し　(c) 材質　(d) 施設方法については出品業者より説明を受ける。
(a)，(b)については競技規則による。
(c)については張った時に曲がるもの，体の接触で折れるものを除く。
(d)については全ての附属品がコート内に入らず，フロアーとポストが密着すること。
4．ラインテープ　(a) 長さ　(b) 材質　(c) 幅及び幅の伸縮度　(d) まさつ　(e) 定着強度　(f) 色について行なう
(a)については20ｍ6本1コート分を最良とし，必ず長さの表示を行なう。
5．ウェアー　(1) 本会大会運営規定第39条を基本とする。
(2) 色について
(a) 白色とする。
(b) ラインに於ける色については一製品2色以内とし，特に醜いものはさける。
(3) ラインの位置，本数及び巾について
(a) ラインの位置については襟，袖口，裾の部分とし，その先端のみを認める。
(b) ラインは1ヶ所，2本以下とし1ヶ所の合計は1㎝以内までを認める。
(4) マークについて（ワンポイント，ペット，シンボル等）
一製品1個所とし，縦，横に於ける最長は3㎝以内とする。
その他の部分に於いてもこれに準ずること。
(5) ボタン，その他の締具，止め金等の部品について
白色を原則とし，着衣，運動の為の機能を果すに必要なものとし，単に装飾的なものは避けること。
6．ラケット　従来の方法による。
7．シューズ　白を原則とする。
8．ストリングス　(a) 長さ　(b) 材質について行なう　(c) 6銘柄までとする。
(a)については必ず長さを表示すること。

日バ発50第63号
昭和50年10月1日

各　　位

日本バドミントン協会用具委員会
委員長　吹　田　修　一

昭和51年度シャトル・ネット・ポスト・ラインテープ検定(審査)について

このことについては，つぎのとおり通知いたします。

記

(1) 日　　時　昭和50年11月3日(月)　10時より

(2) 場　　所　東京都港区三田4－19－15　駒場電気通信学園　三田分校
　　電話　03－447－0795
　　道順　泉岳寺駅（都営地下鉄1号線）下車　徒歩3分
(3) 提出数量　シャトル1銘柄につき　4打
　　ネット1銘柄につき　2張　　ただし返還しない
　　ポスト1銘柄につき　2組
　　ラインテープ1銘柄につき　2コート分
(4) 搬入時刻　当日定刻1時間前
(5) 搬入先　上記 (2)
(6) 結果発表　本会の定めるところによる。
(7) 規　　定　本会用具検定規定による。
(8) 検定料　1銘柄10,000円とする。
(9) 申込期限　昭和50年10月31日　15時まで
(10) 申込先　東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館内
　　日本バドミントン協会事務局　　電話　03－467－3111　内線351

（注）シャトル　(イ) 提出シャトルには各社のテープをまかず，グリーンテープを使用する。（昭和44年申し合わせ）
　　(ロ) シャトル台にはる各社のシールは使用せず，白紙（円形でシール大のもの）をはること。
　　ネット　各社製品を明示すること。
　　ポスト　(イ) 各社製品名を明示すること。
　　(ロ) 1組に要する一切の付属品，使用方法（施設方法）を付すること。
　　(ハ)
　　ラインテープ　1コート分を1単位とすること。
　　その他　○受験者は当日定刻までに会場へ入場下さい。しかしこれらの製品に対して説明のできる者であること。
　　○上記の要領で毎年検定（審査）いたします。

日バ発50第64号
昭和50年10月1日

各　　位

日本バドミントン協会用具委員会
委員長　吹　田　修　一

昭和51年度ラケット・ウェアー・シューズ・ストリングス審査について

このことにつきましては，つぎのとおり通知いたします。

記

(1) 日　　時　昭和50年11月2日(日)　14時より
(2) 場　　所　東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館内会議室　　電話　03－467－3111
　　国電山手線原宿駅下車　徒歩5分
(3) 提出数量　ラケット・ウェアー・シューズ・ストリングスを1銘柄につき2点　ただし返還しない。
(4) 搬入時刻　定刻1時間前
(5) 搬入先　上記 (2)
(6) 結果発表　本会の定めるところによる。
(7) 審査料　1銘柄（各品番ごと）2,000円とする。
(8) 申込期限　昭和50年10月31日　17時必着のこと
(9) 申込先　東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館内
　　日本バドミントン協会事務局
　　電話　03－467－3111　内線351

以　上

★本誌バックナンバーを頒布いたします

◇一冊150円（送共）に均一化

本誌バックナンバーをそろえたいという読者の皆様のご要望にそって、ここに創刊号から60号までのうち、お分け出来るものをご案内いたします。

ご希望の方は、ご希望の号数と冊数をはっきりとご記入のうえ、一冊につき150円を、**必ず現金書留で「バド界編集部」あて**お送り下さい。

この一冊150円には、送料・発送事務費すべてを含みますので、送料は加算しなくてけっこうです。本誌は初期のものと最近のものとでは定価が異なっていますが、事務手続の簡素化と発送の迅速化を図るため、**一冊150円に均一化**させていただくことをあらかじめご了承下さい。

なお、在庫は少ないものも含まれておりますので、万一売切れの場合は悪しからずご了承下さい。その際代金は現金書留にてご返送いたします。

本誌は、バドミントンの百科辞典ともいうべきものですのでぜひ、この機会にバックナンバーをお揃えになるよう、おすすめいたします。

〈あて先〉

〒150東京都渋谷区神南一ノ一一
岸記念体育会館内・日本バドミントン協会「バド界」編集部
——必ず現金書留で——

〈バックナンバー一覧〉

創刊号＝ユーバー杯初防衛
2号＝国際学生選手権
3号＝全国に広がる底辺活動
4号＝国体詳報
5号＝女王の座めざして
6号＝女子C・トーナメント
7号＝トマス杯アジア地区決勝
8号＝トマス杯決勝総まくり
9号＝海外遠征特集
10号＝社会人選手権総まくり
11号＝インターハイ特集
12号＝東日本学生選手権大会
13号＝インターハイ総特集
14号＝全日本教職員選手権大会
15号＝ケガに強くなろう
16号＝国体ワイド特集
17号＝目で見る技術講座
18号＝全日本総合選手権詳報
19号＝アジア大会総まくり
20号＝社会人・学生対抗
21号＝底辺の拡大を
22号＝
23号＝ 小島はなぜハルトノに勝てない（合併号）
24号＝中国との交流問題
25号＝インターハイ特集
26号＝青春の映像・相沢マチ子
27号＝次代のトップをさぐる
28号＝女子学生界の展望
29号＝梅野尾初優勝
30号＝第1回国際女子競技会
31号＝全英で単複制覇
32号＝ユーバー杯代表そろう
33号＝売切れ
34号＝宿願のユ杯3連覇
35号＝ユ杯に見る連続写真
36号＝インターハイ特集
37号＝トマス杯地区決勝で敗る
38号＝中国バドミントンの実力
39号＝国体詳報
40号＝売切れ
41号＝第2回国際女子競技会
42号＝売切れ
43号＝売切れ
44号＝近づく中国との対決
45号＝底辺を広げ支える人々
46号＝続・中国の実力と周辺
47号＝インターハイ特集
48号＝第1回日中大会詳報
49号＝国体・全日本総合特集
50号＝中国チームに学ぶ写真集
51号＝第3回国際競技大会
52号＝湯木2度目の全英制覇
53号＝全英選手権をふり返って
54号＝ピンナップ写真特集
55号＝第5回女子Cトーナメント
56号＝カナダオープン優勝
57号＝全英選手権写真大特集
58号＝デンマークオープン
59号＝第二回訪中友好試合詳報
60号＝売切れ

【バドミントン界】第71号
昭和50年8月25日　印刷
昭和50年9月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）三五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三一一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部二百二十円

©無断転載を禁ず



スピード、パワー、スマート――近代バドミントンを追求するゴーセン

人気独占



Hy Thomas **NO.845**ハイ・トーマス

勝ちたいなら――ゴーセン!

ゴーセンバドミントンラケットの人気が急上昇しています。一流選手のアドヴァイスを積極的に取り入れ、開発された特殊合板による力強いフレーム、抜群の弾力性、重量・バランスの素晴らしさなどがその秘密。

さらに世界で初めてのステンレスワイヤー巻付・特殊油・香水入りガット《ウィンテックス》が加われば まさに鬼に金棒。あなたのスコアアップはゴーセンにおまかせ下さい。

★世界のガットと言われるゴーセンガットは、その一本一本にすべて品質保証のネームが記入されています。よく確かめ類似品にご注意下さい。

●シャープさで定評のゴーセンバドミントンラケットもお試し下さい。

ラケットの決め手

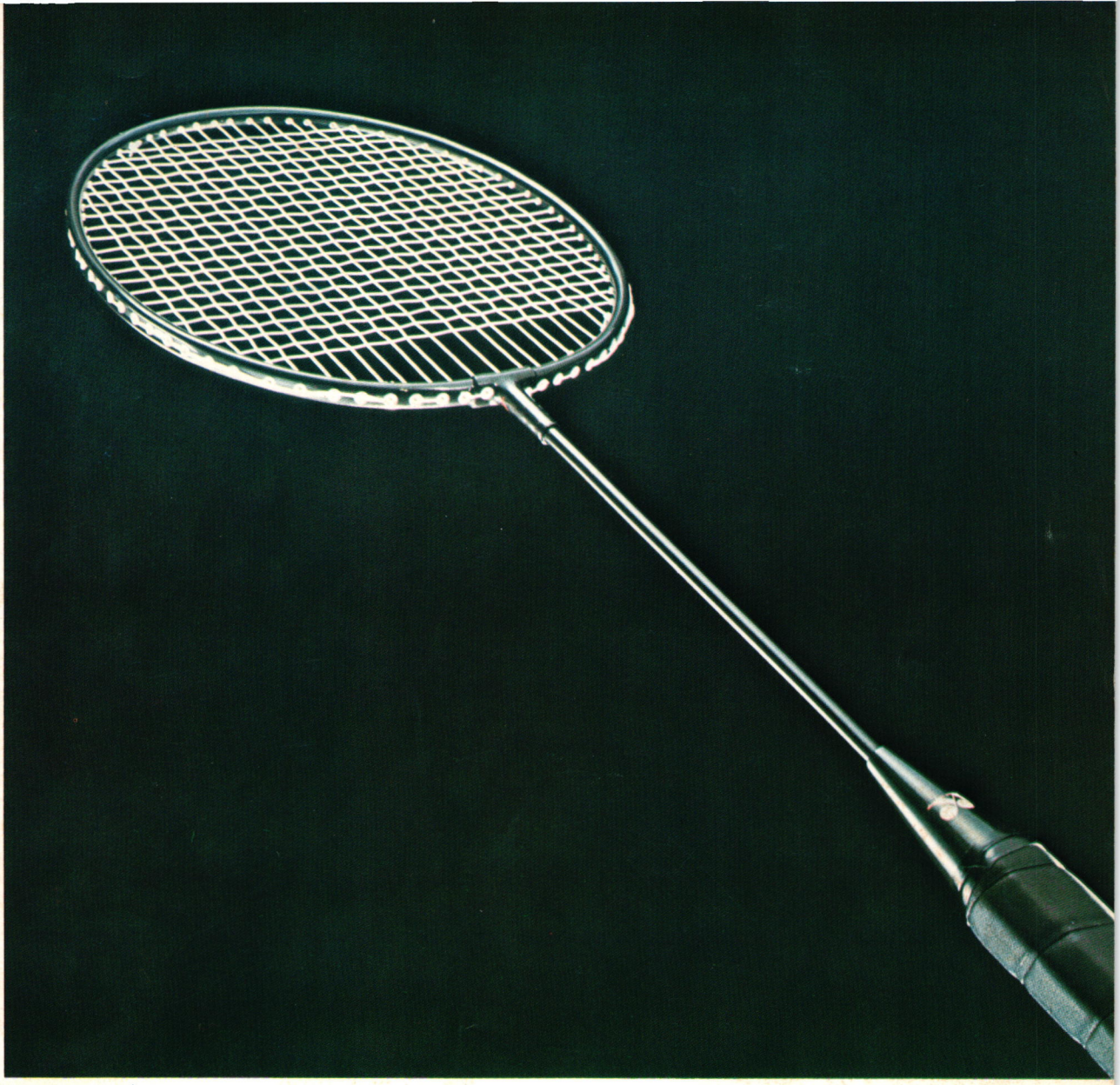
Hy Thomas

株式会社ゴーセン

●本社・大阪市東区豊後町4 ☎06-942-5816

●東京支店・東京都台東区蔵前4-14-2 ☎03-862-6576

昭和五十年九月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本バドミントン協会　定価二百二十円



時速270kmのスマッシュ！

まっ黒いラケットから、まっ白いシャトルコックが時速270kmのスピードで、相手コートにたたきつけられる。目にもとまらぬスマッシュ。今や噂のラケット、ブラッキー。その秘密はヨネックスが初めて可能にした、極細の特殊ステンレスシャフト。ぐんと細身で、普通より長目ですから、まるでムチのように打つ瞬間鋭利にしなります。息をのむ反発力です。そのうえ、特殊合金フレームの強さがプラスされ、切れ味のよい攻撃力。あそこで、ここで、ブラックパワーと恐れられています。

No.8100 BLACKEN

●No.8100ブラッキー……￥5,500

YONEX